週刊 YEAR BOOK

日録20世紀

1924
大正13年

6|9
平成10年6月9日発行
(毎週1回発行)第2巻第21号
¥560
講談社

皇太子裕仁親王ご成婚!

宮澤賢治デビュー作『春と修羅』の評判

米国、「排日移民法」で"日本叩き!"

中国国民党第1回全国大会と孫文の輝き!

ご婚約発表以来、実に6年余り
「宮中某重大事件」、関東大震災などを乗り越え

皇太子裕仁親王、良子女王ご成婚！

▲ご婚儀の日の朝、「おすべらかし」に十二単衣の盛装で、渋谷宮代町の久邇宮邸を出発される良子女王。 毎日新聞社

この年一月、皇太子裕仁親王と久邇宮良子女王のご結婚式が、皇居でとり行われた。ご婚約内定から、実に六年余りの時間が経過していた。政・財界を巻きこんだ妨害工作、そして関東大震災など、ご結婚にいたるまでには、数々の障害が横たわっていた。それらを乗り越えて、晴れの日をお迎えになったのである。

四ヵ月間東京をおおった沈鬱と不安の空気を一掃

大正一三年一月二六日午前一〇時、皇太子迪宮裕仁親王（二三＝後の昭和天皇）が右手に「笏」を持ち、黄色の装束に白綾の袴といういでたちで、皇居の「綾綺殿」から「賢所」にゆっくりと進まれた。皇太子の背後には、威儀を正した東宮侍従が「壺切御剣」を持って従い、さらにご婚約者、久邇宮邦彦王の長女・良子女王（二〇）が「おすべらかし」の黒髪に十二単衣の盛装で後に続く。

お二人は「賢所」の階段を上り、外陣と内陣をはさむ御簾をくぐり、内陣に入られた。内陣では並んでひざまずき、礼をした後、皇太子が良子女王とご結婚するむね報告する「御告文」を読み上げる。その後、外陣に席を移したお二人は、祭壇から下げられた杯を取り、まず皇太子が掌典長から御神酒を注がれ、飲みほす。杯は良子女王に手渡された。「三三九度」にあたる儀式で、この瞬間、お二人は晴れてご夫婦となられたのである。

お二人は、賢所神殿に再度礼拝して「綾綺殿」に戻り、皇族、華族らの拝礼を待った。雅楽の演奏が流れ、「賢所」の扉

▲6月1日、東京市奉祝会場で令旨を朗読する摂政宮。 「国際写真情報」 国際フォト（4点とも）

▲ご成婚時の久邇宮良子女王。「東宮妃に内定」の発表は、大正7年1月のこと。

▲ご成婚時の皇太子迪宮裕仁親王。若き摂政宮として、政務に励まれた。

▲6月1日に行われた奉祝会で、夜空を彩るイルミネーション。

◎表紙　ご新婚当時の裕仁親王と良子女王。大震災で延期されていたご婚儀は、大正13年1月26日に行われた。

ご婚約発表以来、実に6年余り
「宮中某重大事件」、関東大震災などを乗り越え
皇太子裕仁親王、良子女王ご成婚！

は閉ざされて、この最も主要な結婚の儀式に要した時間はわずか二五分間だった。この時を期して、三宅坂の砲兵陣地から一〇一発の礼砲が鳴り響いた。

侍従として式に立ち会った甘露寺受長氏は、「まるで一対のお雛様のよう」と書き残している。参列者は約七〇〇人、大正天皇（四四）は療養中で立ち会えず、外国人は一人も列席しなかった。

「タイムズ」の特派員は当日、「（礼砲に続き）全国津々浦々の軍艦、要塞から祝砲が打ち上げられた。（中略）古風な衣装をつけた行列が街を練り歩いて祝祭気分をあおっている。これで過去四ヵ月間東京をおおっていた沈鬱と不安の空気は完全に一掃された」と送稿している。「沈鬱と不安の空気」とは、前年の関東大震災による壊滅的な被害をさしている。

この日の東京は晴れ。厳寒のさなかであり、しかも悪性の風邪が流行中で、厳粛な儀式の途中にセキやくしゃみの音が絶えなかったという。

午後、お二人は、皇居から赤坂離宮まで儀仗騎兵に囲まれ、ロールスロイスで行進された。皇太子は陸軍中佐の正装、同妃は水色のローブ・デコルテ姿だった。馬車やオープンカーではなかったため、お二人を存分に見られなかったが、沿道の五万人の市民は、歓呼の声で門出を祝福したのである。

東京・浅草区（現・台東区）に住む八四歳の細川光三郎老は、「自分は明治、今上、皇太子の三代のご成婚に際会し、こんなにありがたくもったいないことはない」と感激を語っている（「朝日新聞」一月二七日）。震災の爪痕も癒えない時期だけに、市民の熱狂ぶりも激しく、見物人の中からは、卒倒したり負傷する人が五八人も出たほど。

その後、静養中の大正天皇を沼津御用邸へ訪ねて結婚を報告、そしてほぼ一ヵ月後の二月二一日には伊勢神宮に参拝し、一連の儀式は終わった。

本来は、これに続き、祝賀の饗宴の儀や、奉祝行事が開催されるが、やはり震災の影響で五月まで延期されたのである。

「国際写真情報」／国際フォト（2点とも）
▲馬場先門付近に建てられた奉祝塔と花電車。

毎日新聞社
▲お二人は、翌2月下旬、ご婚儀報告のため伊勢神宮、桃山御陵、畝傍山御陵に参拝。写真は伊勢神宮外宮にて。

◀この年八月、福島県猪苗代湖畔の翁島へ新婚旅行。「なつかしき 猪苗代湖を 眺めつつ 若き日を思う 秋のまひるに」は、後年再訪された時の御製。

トラブル続きだったご成婚までの道のり

宮内省が久邇宮家に、「良子女王を東宮妃に」と内々に申し出たのは大正六年末のこと。「東宮」とは、皇太子をさす皇室用語である。「内定」発表は翌大正七年一月。裕仁皇太子が一六歳九ヵ月、良子女王は一四歳一〇ヵ月の若さだった。良子女王は、在学中の学習院女学部を退学し、「お妃教育」に専念したのである。

だが、その後、お二人のご成婚までの道のりは、決して平坦ではなかった。難関の最大のものは、「宮中某重大事件」である。良子妃の母方の薩摩（鹿児島県）・島津家には「色覚異常」の血筋があるとの理由で横槍が入ったのだ。この事件は、大正一〇年二月一〇日、宮内大臣が、「東宮妃御内定（中略）は何等変更なし」と述べ、落着した。

婚約内定からここまで、実に四年の歳月が流れていた。そして大正一一年六月、大正天皇の「勅許」が降り、結納にあたる「納采の儀」を七月上旬に行うことが決まった。だがその直後、皇族の最長老で良子女王の大叔父の東伏見宮依仁親王が逝去し、納采は三ヵ月延期を余儀なくされる。翌大正一二年四月、挙式は同年一一月下旬と発表された。ご成婚は間近と思われたが、関東大震災が東京、横浜を襲った。宮内省は九月一九日、ご婚儀延期を発表せざるをえなかったのである。

〝トラブル〟はご成婚後も続いた。ご夫妻の第四子までが、ことごとく内親王、つまり女性ばかりだったからである。天皇は「男系男子」に限るという規定があり、危機感をおぼえる人もいた。

お二人に待望の皇太子（現・天皇）が誕生したのは昭和八年一二月のこと。ご成婚から実に一〇年の時がたっていた。

昭和天皇は、皇室に数々の改革を加えられた。皇室ジャーナリストの河原敏明氏が言う。

「最も大きかったのは女官制度の改革です。それまでの側室予備群のような、未婚の処女を集めた大奥のような存在を一掃し、女官の大半を既婚の中年女性になさった。言い換えれば二〇〇〇年の伝統を破り、一夫一婦制を実現されたのです」

そして同氏は後年のご夫妻について、「金婚式を迎えられた頃から、皇后陛下は体調不良となられ、お一人の地方行幸がふえました。そんな時、陛下はかならず『良宮を連れて来たかった、良宮に見せたかった』ともらされていました」と語る。

昭和天皇は、昭和六四年の崩御まで、歴代最長の在位記録を達成され、良子皇太后は、この春、九五歳を迎えられた。

4ヵ月遅れの「饗宴の儀」盛大に「引出物」は、ボンボニエール

関東大震災のため延期された皇太子ご成婚奉祝「饗宴の儀」が、大正13年5月31日から6月4日まで連続して、皇居「豊明殿」などで開催された。初日は貞明皇后、皇族や親任官、各国大公使ら約250人が列席。中には日露戦争の英雄、東郷平八郎の姿も見られた。皇太子は陸軍中佐の正装、同妃は純白のローブ・デコルテ。メンデルスゾーンの「結婚行進曲」が流れる中、華やかな晩餐会となった。「引出物」は、菊の紋章入りの朱檀のボンボニエール（ボンボン入れ）と献立表。2日目以降は、各界の人々が順次列席した。傑作だったのは右翼の巨頭・頭山満。和服党の彼は、異例の招待に急遽燕尾服を発注、前日夕刻にでき上がってなんとか出席がかなった。

この饗宴と並行して、東京、大阪をはじめ、全国で奉祝行事が繰り広げられた。さらに朝鮮の京城（ソウル）でも、5日間にわたり、花電車が登場、小学生・女学生の奉祝運動会が開催されて、ご成婚以来のにぎわいとなった。

◀三月一五日、結婚後初めて撮影された記念写真。
朝日新聞社

二七歳、無名の青年が「心象スケッチ」を発表！
自費出版で一〇〇〇部刊行したが……
宮澤賢治のデビュー作『春と修羅』の評判

▶大正13年、鹿革の陣羽織を仕立て直した上着を着る賢治。この年の末には、すでに『銀河鉄道の夜』の第1稿が書かれていた。 林風舎提供

◀大正14年、花巻農学校の教壇に立つ賢治。黒板上に断面図を描いて、北上平野一帯の地質を説明している。
林風舎提供

大正一三年春、宮澤賢治の最初の単行本が刊行された。「心象スケッチ」と作者自身が呼んだ詩集『春と修羅』である。だがそれは、ほとんど売れなかったばかりか、翌年には東京・神田の古書店で投げ売りされていた。後に国民詩人・童話作家となる賢治のデビューは、想像以上に地味なものだったのである。

上京して詩人に……満たされなかった野心

大正一三年四月二〇日、一冊の詩集が自費出版された。題名は『春と修羅(しゅら)』。

その序は、

「わたくしといふ現象は／仮定された有機交流電燈の／ひとつの青い照明です」

と書き出されていた。

著者は、『銀河鉄道の夜』『風の又三郎(またさぶろう)』などの作者として知られる宮澤賢治。岩手県の花巻(はなまき)農学校教員で、まったく無名の二七歳の青年だった。賢治は、大正一一年一月から、堰(せき)を切ったような勢いで詩を書き始める。約二年の間に書かれた六九編をおさめた初の詩集が、『春と修羅』だった。それを「詩集」ではなく、あえて「心象スケッチ」として刊行したところに、新しいスタイルを確立したとの自負がうかがえる。発行部数はわずか一〇〇〇部、定価は二円。だが、ほとんど売れなかった。後に賢治に脚光をあてた詩人の草野心平(しんぺい)は、神田の古書店でわずか五〇銭でたたき売られているのを目撃している。

『年譜宮澤賢治伝』の著者・堀尾青史氏は「著者からどんどん寄贈され（在庫は減ったが）、一〇〇部も売れたかどうか」と書き、さらに賢治の没後もまだ余っていた、と言う。

賢治は、寄贈先から「『春と修養』をありがたう」という礼状をもらい、大いに腐った。そして「いろいろな人たちに贈りました。その人たちはどこも見てくれませんでした」と嘆いたのである。

「『春と修羅』には、賢治の中の二面性がはっきり出ている。詩や創作の世界にひたる『俺』と、それを見つめる、現実の世界にいる『私』という対比で見ると理解しやすい。たとえば『小岩井農場』という詩には、『わたくし』と『おれ』が混在していますが、これはその典型です。二つの立場を設定して、新たな詩の方法を模索したきわめて劇的な作品が、『春と修羅』です」

と解説するのは、同姓同名の賢治研究者、宮沢賢治白百合女子大学教授だ。

賢治は、この年一二月に童話集『注文の多い料理店』も出しているが、やはり詩集同様反響はなかった。印税代わりに賢治が得たものは現物一〇〇部だけ、そのうえ、売れ行き不振を補うために、父親から借金して二〇〇部を買いたしたほどだった。

「賢治としては、前々から本の刊行を機に上京して詩人として生きたいという、上昇志向にもつながる野心を抱いていた。ところが本はさっぱり売れず、上京のチ

▶処女詩集『春と修羅』。注ぎこんだ自費を取り戻すどころか、費用のかけだおれに終わった。

木挽社提供(4点とも)

▶二冊目の単行本『注文の多い料理店』。一冊目同様売れず、〝注文の少ない童話集〟だった。

▶『注文の多い料理店』挿画（菊池武雄）。

▲『春と修羅』の印刷用原稿。

ャンスも閉ざされて、次第に内向的に、つまり〝修羅〟になり、その結果、孤独で特異な作家になっていったのです」（宮沢教授）

多数の作品を残した賢治の生前の刊行物は、意外なことに、この二点だけだった。

◀花巻農学校校門。賢治は、大正10年12月に教諭就任。代数、化学、英語、農業などを担当した。
木挽社提供

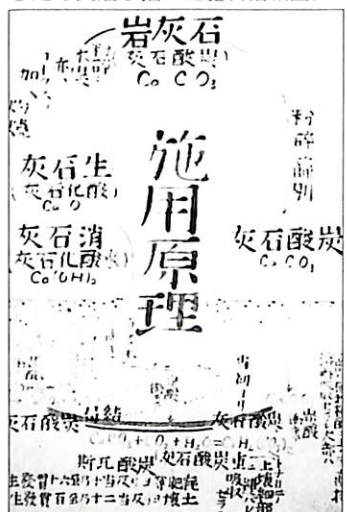
詩「雨ニモマケズ」を実践して肋膜炎に

賢治は明治二九年、岩手県花巻町（現・花巻市）の質・古着商の長子として産まれた。が、この家業が賢治には大きな負担になっていた。賢治は知人に「花巻、黒沢尻あたりの財閥は、農村を搾取してできたものだ。これをまた農民に返させるのが自分の仕事だ」と生家への嫌悪感をあらわに語っていた。賢治は父・政次郎に対しても、少年時代から反発を越え、憎悪に近い感情を抱いていた。たとえば、県立盛岡中学在学当時、「父よ父よ　などて舎監の前にして　かのとき銀の時計を巻きし」と詠んでいるほどである。

さらに、二人の対立は信仰宗派の違いで増幅された。中学時代から「法華経」に心酔した賢治は、真宗の父親に改宗を求めるが、拒否される。一方、太鼓をたたき、お題目を唱えながら近所を歩く賢治に、父親はさらに違和感を強めるばかりだった。

賢治は父への反発に反比例するように、妹・トシには濃密な愛を注ぐ。大正一一年、その妹の死の夜に「永訣の朝」「松の針」「無声慟哭」という三つの挽歌を書いている（『春と修羅』所収）。

賢治は、盛岡高等農林学校卒業後、研究科に進み、地元の地質調査を依頼された。これが、後に農民に最適な作物や肥料をアドバイスするのに役立ったのである。だが、教師生活にもどかしさを感じ、直接農民に農業だけでなく、生活全般を教えることに踏み切っている。『春と修羅』刊行から二年後の大正一五年、ついに農学校を退職、一人で自炊生活を始めた賢治は、農民たちを相手に、レコードコンサートや幻灯会などを開催する一方で、稲作、肥料の指導所を各地に設立した。さらに一一月、「羅須地人協会」を設立して、活動を強化した。後に「雨ニモマケズ」に書かれているように、深刻な経済不況に加え、旱害・冷害で一層追い打ちをかけられた農民たちのために東奔西走したのである。だが、賢治の奮闘にもかかわらず、かならずしも成果が上がらなかったのが実状だった。

▼大正15年頃、教材として使用するため賢治が描いた肥料循環図。

そうした挫折感と失意、さらには過労の中で、賢治は昭和三年八月、肋膜炎に倒れる。昭和六年には病が再発し、この年一一月、病床で書かれたのが「雨ニモマケズ」だった。その後、病状は一進一退を繰り返したが、次第に衰弱の度が増し、昭和八年九月二一日、賢治は三七歳の生涯を終えた。

平成八年、「生誕一〇〇年」を迎えた日本列島は、「賢治ブーム」に沸いた。

前出の宮沢教授は、こう語る。

「賢治を分析すると、『責任感が強い』『いばらない』『ユーモアがある』『私欲がない』『積極的』『自由奔放』といった点が浮かんできます。こうした要素は、ひとことで言ってリーダーの資質、言い換えれば管理職の条件そのものでした。経済が閉塞状況にある中で、管理職の人々が賢治から学ぶべきだと気づき始めたことがブームにつながったのでしょう」

だが、生前の賢治はこうした評価や栄誉とは無縁だった。賢治の全集が出版されるのは、賢治の死の翌年まで待たなければならなかったのである。

林風舎提供
▲大正11年の花巻農学校第1回卒業記念写真。前列左端が賢治。

女たちの肖像

女の側から描いた〝新しさ〟みずからの離婚をモデルに宮本百合子、「伸子」を発表

稲葉真弓

プロレタリア作家として知られる宮本百合子（二六＝旧姓、中条ユリ）が、代表作「伸子」の第一回目を「改造」の九月号に発表したのが、この年のこと。七五〇枚におよぶ作品は、みずからの結婚、離婚をモデルにしたもので、作中の「伸子」と夫の苦悩は、現実の百合子とその夫の苦悩に重なるものだった。

当時この小説は「力作」とそれなりの評価を受けたが、反発も呼んだ。後に彼女が参加するプロレタリア文学運動の作家たちは、ブルジョア文学を否定する立場から「プチ・ブルどもの夫婦別れの話」として黙殺。一般の読者も、離婚を女性の側から描く〝新しさ〟には鈍感で、「伸子」を身勝手な女として見る風潮があった。作品が多くの読者に読まれるようになったのは戦後を迎えてから。自立を求める女性たちが「伸子」の生き方に共感した。皮肉なことに、この小説は新しすぎたがゆえに、二〇年もの間、正当な評価を得られなかったのである。

▲「貧しき人々の群」は、大正五年「中央公論」に発表され、天才少女とうたわれた。

反発を招いたのは、百合子のプチ・ブル的家系にもあったのかもしれない。明治三二年、東京・小石川生まれ。彼女の父、中条精一郎は、東京駅前の東京海上ビル、北海道大学など日本に鉄筋建築を導入した功労者として知られ、母の葭江は明治の倫理学者・西村茂樹の長女。娘の文才を見抜いたのは母親だった。百合子は日本女子大一年の時「貧しき人々の群」を発表、本格的作家活動に入るが、母親はステージ・ママぶりを発揮、「この子は紫式部か清少納言」と言っては編集者たちを辟易させたという。

自由を求めて、大正七年父親とともに渡米。翌八年、当地で知り合った一五歳年上の古代東洋語研究者の荒木茂と結婚したが、足かけ六年で破綻。「伸子」に描かれたのは、この間の夫婦の煩悶である。

離婚後は、ロシア文学者の湯浅芳子と同居、女同士の〝愛の完成〟を夢見るが、芳子とともに渡ったソビエトで、社会主義に目覚めて帰国。昭和六年日本共産党に入党、翌七年、九歳年下の共産党員・宮本顕治（八年、党中央委員）と再婚した。この直後、文化団体への弾圧が始まり、何度も検挙され、作品発表を禁じられた。市ケ谷刑務所に拘置された夫とも、約一〇年間生き別れになった。戦後は、夫とともに共産党員としての活動を開始。小説の方でも「播州平野」「二つの庭」などの名作を残した。二六年一月、敗血症で死去。五二歳だった。

勝者・敗者

深夜の敗者復活戦で奇跡！パリ五輪唯一のメダリストレスリング・内藤克俊の根性

阿部珠樹

日本におけるアマチュア・レスリングの注目度は、きわめて低い。話題になるのはオリンピックの時だけ。しかもメダルを獲ってようやく注目される。一番顕著な例は昭和六三年のソウル・オリンピックで、日本が獲得した金メダル四個のうち、二個がレスリングだったにもかかわらず、選手の名前を知っていた人はほとんどいなかった。

こうした事情は何も今に始まったことではない。ずっと昔、大正時代からすでにそうだった。いわば筋金入りのマイナー競技なのである（もちろん、そのことは日本レスリングの栄光の歴史をおとしめるものではないのだが）。

この年、大正一三年のパリ・オリンピックで、メダルの期待がかかっていたのは三段跳びの織田幹雄（一九）、水泳自由形の高石勝男（一七）などで、レスリング陣の名前は、ほとんど下馬評にもあがらなかった。それでも、いっこうに気にせず、思い切った試合をするのが、日本レスリング陣の伝統である。内藤克俊（二九）も、そうした典型的な日本レスリング野郎だった。

フリースタイル・フェザー級に出場した内藤は、ベストエイトに勝ち進み、アメリカのロビン・リードと対戦する。しかしレスリング強国の代表の力は一段上で、あっさり敗退。これで終わりと宿舎に戻った内藤は、夜、役員からたたき起こされる。内藤に勝ったリードがその後も勝ち進んで優勝したため、二位、三位を決める試合に出場する権利が与えられたというのだ。今で言う敗者復活戦。時刻は日付けが変わろうとする深夜。おっとり刀で会場に駆けつけた内藤は、緒戦こそアメリカのニュートンに敗れたが、続く二試合で、フィンランドとスウェーデンの選手を連破し、第三位に食いこんだ。オリンピック本番で二回も負けながらメダルを獲ったのは、珍しいケースと言える。これも、試合の結果に一喜一憂せず、与えられた機会に貪欲に食らいつくレスリング野郎のガッツの賜物だった。

内藤の銅メダルは、この大会、日本選手団が獲得した唯一のメダルとなった。

▶参加した日本代表選手は、内藤を含め一九人。

ニュース・ファイル 1924

フォト＋日録で再現する366日

関東大震災で壊滅した「帝都」復興の槌音が響く中、摂政宮（皇太子）の結婚の儀が盛大にとり行われた。護憲三派は「超然」清浦内閣を葬り、政党内閣を成立させた。世界もまた大きな転換期を迎えた。レーニンが死に、ヒトラーが新しい「英雄」となった。

◀花開く谷崎潤一郎（1月）関東大震災で家を失い、前年に関西に移住。これを機に「暗中模索の時代」を終えた。37歳。写真は妻・千代子と娘。3月に「痴人の愛」の新聞連載開始、一気に「谷崎文学」を築き上げた。
朝日新聞社

1月

毎日新聞社

◀関東地方にまた強震（1月15日）東京・神奈川で列車の脱線・転覆、家屋倒壊が続出、死傷者は神奈川に多くて、250人近くに達した。震源地は丹沢付近で、M7.3。写真は震災後4ヵ月しかたっていないため、「またか」と逃げ出す東京の人々。

▼イギリスに初の労働党内閣誕生（1月22日）保守党のボールドウィン内閣が議会不信任のため、国王のジョージ5世は常道に従って、第2党に政権を与えた。首相にマクドナルド党首（57、左）が就任、ソ連と国交を結ぶなど革新政策を進めた。

▼護憲4巨頭が結集（1月30日）大阪で憲政擁護関西大会を開催。「超然」内閣打倒の演説に、数万人が熱狂。写真は前日の4人。革新倶楽部の犬養毅（左端）と尾崎行雄（右端）、政友会・高橋是清（中左）、憲政会・加藤高明（中右）。

「写真通信」

讀賣新聞 外號
解禁された二重橋爆弾事件
三個の爆弾を投じて
怪漢二重橋に突進す
犯人は義烈団の

「警視庁百年の歩み」

▲二重橋事件起こる（1月5日）朝鮮独立を求める義烈団員の朝鮮人（写真）が、日本人らの支援を得て東京に潜入、治安妨害におよんだが、警察官に発見され、爆弾3発を投じるが不発だった。写真右は、事件を報じた号外。

「国際写真情報」／国際フォト

◀東京に市営バスが登場（1月18日）市内2路線に、フォード社製11人乗りを配車。料金は1区10銭。「円太郎」と呼ばれ、新しい交通機関となった。写真は改造前のフォード車。

▶第1次国共合作成立（1月20日）中国国民党の第1回全国代表者大会で「連ソ・容共・扶助工農」が掲げられ、共産党との共闘が決まった。写真は孫文（57、中央）と両党代表者。

ユニフォト・プレス

大正13年 1月

1（火）●枢密院議長・清浦奎吾に組閣の大命（7日、貴族院議員・軍人の「超然」内閣成立）。
2（水）●「大阪朝日新聞」、発行部数一〇〇万部突破を社告（1日、「大阪毎日新聞」も同様社告）。
3（木）●東京駅、遠隔地への乗客増加で元日の収入は五万円、前年同期より倍増、と新聞に。
4（金）●東京市、独身女性用宿泊所開設。利用者の大部分は震災罹災者。
5（土）●宮城・二重橋で独立求める朝鮮人・金祉燮が爆弾投擲（未遂）、逮捕される（二重橋事件）。
6（日）●仏・セーヌ川が大氾濫、市内各所で交通遮断。
7（月）●女性の流行色は復興示す深緑色、と新聞に。
8（火）●農商務省、木炭不足で貨車増発を東鉄に要請。
9（水）●大震災後の宮城前テント村、撤去開始。
10（木）●政友会・憲政会・革新倶楽部の護憲三派、清浦内閣打倒運動を開始（第二次護憲運動）。
11（金）●東京市、一六人の天然痘罹患で強制種痘実施。
12（土）●震災後の正貨減少一億二〇〇〇万円と大蔵省。
13（日）●枢密院議長に浜尾新が任命される。
14（月）●賠償専門委員会（ドーズ委員長）、パリで開催。独の賠償支払い方式決定のため（～4月9日）。
15（火）●関東南部にM七・三の地震、一九人死亡。
16（水）●清浦支持の床次竹二郎ら政友会を脱党（29日、離党した鳩山一郎らと政友本党結成）。
17（木）●東京電灯、大同電力から電力購入。初の融通。
18（金）●東京市営バス、一一人乗りで運行開始。
19（土）●復興の区画整理で立ち退き要求された東京・浅草の住民ら五〇人、猶予求め東京市に直訴。
20（日）●中国国民党第一回全国代表大会開催、「連ソ・容共」方針を採択（第一次国共合作）。
21（月）●レーニン、モスクワ郊外で死去。五三歳。
22（火）●英初の労働党政権、マクドナルド内閣成立。
23（水）●震災後新設の九ヵ所の公設浴場が三銭で人気、五銭の浴場業者は公設増加に猛反発と新聞に。
24（木）●神戸生糸検査所開設。横浜港の独占崩れる。
25（金）●第一回オリンピック冬季大会、仏・シャモニーで開催（～2月5日）。日本は不参加。
26（土）●皇太子裕仁親王、久邇宮良子女王とご成婚。
27（日）●電力不足で東京の省線電車運休続出し混乱。
28（月）●成婚記念として上野動物園などが下賜される。
29（火）●護憲三派、総本部設置。総選挙に共同歩調。
30（水）●この月米国から帰国の市川房枝、ILO（国際労働機構）東京支局書記に就任。
31（木）●衆議院、暴漢三人が議場占拠、休憩中に解散。

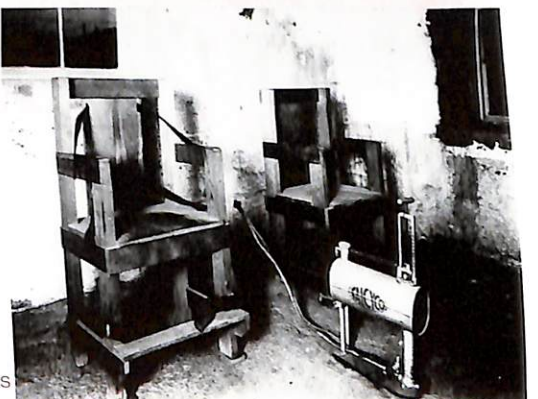
朝日新聞社

▲外国タバコ、緊急輸入(2月)前年の震災で煙草専売局は、東京の芝・淀橋・蔵前の3工場が生産停止。中国・米国から8000万本の両切りタバコが輸入され、証票貼付作業に追われた。

朝日新聞社

▲土方与志、帰国(2月)震災の報で前年末、ドイツからソ連経由で帰国。神戸・六甲ホテルに滞在(写真)、震災後大阪に移った師・小山内薫とともに、築地小劇場の設立を準備した。

朝日新聞社

▲戦艦「敷島」、解体(2月)ワシントン軍縮条約により、非戦闘用の練習特務艦に転用。明治31年に進水、日露戦争時の日本海海戦、シベリア出兵での沿海州警備などに活躍した。写真は佐世保工廠での、前部砲塔哨と旋回盤の撤去作業。

▲ウィルソン前米大統領、死去(2月3日)67歳。1912年、民主党から第28代大統領に当選。第1次大戦で「戦争をなくす戦争」を唱えた。戦後、国際連盟設立につとめノーベル平和賞受賞。写真は6日に行われた葬儀。

「写真通信」

▶ボクシング草創(2月23日)東京の上野公園で学生が熱戦。前年に神田・殖民貿易語学校公認の拳闘部が創設されるなど、急速に普及。4月には、初の日本軽量級拳闘選手権試合が行われた。

PPS

▶死刑に初のガス室(2月8日)米ネバダ州の刑務所で、敵対者を殺した中国人ギャングに使用。青酸ガスを吸った男は全身をけいれんさせ、10分後死亡した。米軍保健局は「所要時間が最も短く、人道的」としている。

大正13年2月

1(金)●英労働党政権、ソ連を承認(7日、伊も)。
2(土)●陸軍、在営年限短縮で炊事班廃止、民間人採用。
3(日)●第一七師団(岡山)、廃止前に産業講習会開始。
4(月)●内務省、八四の震災臨時病院の閉鎖決定。
5(火)●東京市、失業者の他県転出促進で補助金支出。
6(水)●東京市会、電灯料金一キロワット一八銭から一六銭への値下げ案可決(4月1日、実施)。
7(木)●水谷八重子ら芸術座再興。「ドモ又の死」初演。
●吉野作造、東京帝大教授を辞し朝日新聞社入社(4月1日、筆禍事件を起こし、5月退社)。
8(金)●米がガス室での死刑を世界で初めて執行。
9(土)●日独貿易がさかんになり、ドイツ語の得意な婦人タイピストの需要が増加、と新聞に。
10(日)●工事中の丹那トンネル崩落。一六人圧死。
11(月)●日本医師会初代会長・北里柴三郎に男爵位。
12(火)●大蔵省、対英米震災復興公債調印(国辱公債)。
13(水)●前年の第一次共産党事件で山川均・堺利彦・佐野学ら二九人全員に予審有罪。
14(木)●東京市内のバラック二一九八戸、七万人居住、希望者は八万人で撤去見通しゼロ、と新聞に。
15(金)●閣議、国際労働会議労働代表の任命制変更、労働団体の公選制と決定(4月鈴木文治選出)。
16(土)●東京・羽田町の神社境内で、下校後の小学生一〇人が賭博現行犯で検挙される。
17(日)●東京・上野の憲政擁護デモ行進に二万人参加。
18(月)●警視庁、警察官の拳銃携帯を実施。各署に四〇〇挺配布。一署当たり三挺。
19(火)●茨城県松原警察署が全焼、留置の二人焼死。
20(水)●女子学習院、一般に開放し五人の入学決定。
21(木)●治安維持法反対労働団体大会、東京で開催。
22(金)●大阪府、情死がテーマの有島武郎作「羅馬の舊蹟」を女学校教科書から削除決定。
23(土)●米大統領、比の独立案に時機尚早と言明。
24(日)●東京の交通事故死は一ヵ月一五人、交通警官に逮捕権ないため大部分が轢き逃げと新聞に。
25(月)●虎の門事件で辞任の元警視庁警務部長・正力松太郎、経営難の「読売新聞」買収、社長に就任。
●帝都復興院廃止。復興局が発足し横浜も管掌。
26(火)●ソ連、ウラジオストクの副領事、駐在武官らをスパイ容疑で拘禁(3月16日釈放)。
27(水)●戸籍原簿焼失の東京で、一九歳になる丙午生まれの娘を一八歳で届け出る親激増と新聞に。
28(木)●紀勢西線、和歌山―箕島間が開業。
29(金)●日本農民組合全国大会、耕作権確立など決議。

朝日新聞社

▼柳宗悦、朝鮮民族美術館設立へ(3月27日)李朝時代の陶磁器や家具など、浅川伯教・巧兄弟の収集品展示のため、4月9日、京城の旧宮殿内に開館。この日、兄弟を支援した柳夫妻が開館式に出発した。

「写真通信」

朝日新聞社

▲作家・有島武郎の遺品売り立て(3月1日)前年に雑誌記者と情死して、世間を騒がせたが、会場の自邸は大盛況。売り上げは、幼い遺児3人の育英費にあてられる。右は実弟の生馬。

▲初めての着物姿(3月)シアトル生まれの18〜21歳の日本人女性4人が初来日。日本橋・白木屋で着付けして、銀ブラ。長年あこがれていた夢を実現した。

「イリュストラシオン」

▶借家人が憤慨の叫び(3月27日)東京・上野公園に各区住居保護連合会が結集、家賃引き上げ、立ち退き要求など、震災後の家主・地主の横暴を訴えた。

「写真通信」

毎日新聞社

▲飛行船が空中爆発(3月19日)横須賀で係留訓練を終え、霞ケ浦に帰航の途中、茨城県相馬郡上空で爆発。ゴンドラは炎に包まれたまま山林に墜落し、搭乗者5人全員が死亡した。写真上は、墜落した飛行船と同型の英国製「SS3号」。下は墜落現場。

「写真通信」

▶電送写真実験始まる(3月)三菱商事が、ドイツから有線写真電送機を輸入、東京・三菱造船研究所で、48キロ先への電送に成功した。瞬時に遠方からの画像が写し出されるこの機械は、驚きだった。

大正13年3月

1(土)●野坂参三、加藤勘十ら産業労働調査所を設立。
2(日)●基督教青年会、横浜市へ花の種五万袋を寄贈。
3(月)●トルコ大国民議会、キラーファト(カリフ制)廃止(16日、オスマン家全員を国外追放)。
4(火)●神戸・湊川公園で神戸タワー開業。
5(水)●小作制度調査会、自作農助成案大綱を決定。
6(木)●英、シンガポール軍港化計画廃棄(12月撤回)。
7(金)●米大統領、小麦などの関税引き上げを発表。
8(土)●大震災で東京の桜四〇〇〇本枯れると新聞に。
9(日)●補助金削減で南米移民の減少目立つと新聞に。
10(月)●日本・シャム(タイ)通商航海条約締結。
11(火)●震災後のバラック街に流行した腸チフスで、一月以降の死者は三九五人と東京市衛生局。
12(水)●京都労働学校が開校。校長・山本宣治。
13(木)●新入児童の洋服・靴・男女三円七〇銭、男六円九〇銭、女八円五〇銭、と三越の広告が新聞に。
●司法省、監獄用語を全面改正。監獄→刑務所、囚人→受刑者など「監・獄・囚」を全廃。
14(金)●日米協会、戦艦「三笠」保存を正式決定。
15(土)●海軍労組連結成。四万七〇〇〇人で国内最大。
16(日)●常ノ花、三一代横綱に昇進。
17(月)●東京市、水道橋に婦人職業紹介所開設。
18(火)●電話料金、一回三銭に改正(4月1日実施)。
19(水)●潜水艦「第四三号」、佐世保港沖で巡洋艦「龍田」と衝突し沈没、四五人死亡(4月引揚げ)。
20(木)●谷崎潤一郎、「痴人の愛」を「大阪朝日新聞」に連載開始(大正14年7月刊行)。
21(金)●カナダ、日本人労働者の入国を制限。
22(土)●人絹ショールが婦人の間で今春流行と新聞に。
23(日)●内務省、大分県別府町、宮崎県宮崎町などの市制施行を認可(4月1日実施)。
24(月)●東京市、各区の小学校仮校舎の割当数を決定。
25(火)●三井信託株式会社(現・三井信託銀行)設立。
●沖縄県、沖縄神社建立のため首里城の撤去工事開始(30日、三階建て正殿のみ保存決定)。
●千葉・加曽利貝塚(縄文期)の発掘調査を開始。
26(水)●関東教育大会、教員給与全額国庫負担を決議。
27(木)●岩崎家、七年制の成蹊高校設立援助を決定。
28(金)●新潟県木崎村の小作争議、地主が小作地の立ち入り禁止強行。小作組合長抗議の割腹自殺。
29(土)●明治大野球部、アメリカ遠征に出発。
30(日)●東京・大和村に村山貯水池完成し通水式。
31(月)●鉄道省、起動力の大きな八〇〇〇形電気機関車(後のEF五〇形)の運行を開始。

▲競馬人気復活（4月26日）過度の賭博性から、明治41年以来、馬券発売禁止だったが、馬匹改良事業促進のため、前年から馬券発売を許可。東京・目黒競馬場は二日間、倍増した入場者で沸いた。

「国際写真情報」／国際フォト

▼西条八十、フランスへ留学（4月15日）ソルボンヌ大学に2年間、フランス詩を研究。磨きのかかった都会的センスは、後に「東京行進曲」などヒットを連発した。写真は、東京駅での西条と娘。

朝日新聞社

▼「第43号」潜水艦引揚げ（4月18日）演習中、佐世保沖で巡洋艦「龍田」と衝突・沈没、その31日後に浮上した。事故11時間後に18人の生存を確認したが救出できず、乗員45人全員が犠牲になった。

「国際写真情報」／国際フォト

「国際写真情報」／国際フォト

▲組合選出の鈴木文治、国際労働会議に（4月4日）1000人以上の労働組合が、初めて労働代表に総盟会長の鈴木（38）を選出。24日、出発した。

毎日新聞社

▶第1回選抜中等野球大会開催（4月1日）名古屋・山本球場（写真）に8チームが参加。5日の決勝戦で高松商業が2対0で早稲田実業を破り、初の栄冠。

▼第4回ミス・アメリカ・コンテスト（5月）各都市代表84人が勢ぞろい。優勝者はフィラデルフィア代表のルース・マルカムソン（前列右から4人目）。

PPS

大正13年4月

1（火）●第一回全国選抜中等学校野球大会、名古屋で開幕（5日、高松商業が優勝）。
2（水）●鉄道省、東海道線電化のため電気事務所設置。
3（木）●日ソ漁業交渉が妥結（5日、取引開始）。
4（金）●静岡県浜名郡下の小学校七〇校で、ミシン裁縫を高等科の正課に採用。
5（土）●東京・秋葉原駅のプラットフォーム完成。
6（日）●伊総選挙でファシスタ党が六五％の絶対多数獲得。ムッソリーニ独裁へ。
7（月）●独共産党の活動禁止が解除になり大会開催。
8（火）●警視庁、紙幣一二四万円偽造の七人を検挙。
9（水）●京城（ソウル）に朝鮮民族美術館オープン。
10（木）●野口援太郎ら「教育の世紀社」同人が、東京・池袋に「児童の村小学校」を開校。
●輸出不振で入超額五億円突破。輸出は生糸・マッチ・織維、輸入は鉄・木綿・木材の順。
11（金）●第一回メートルデーが全国で挙行される。
12（土）●米下院、排日新移民法案可決（15日上院可決。5月26日大統領裁可。7月1日施行）。
13（日）●自動車競走会、東京立川飛行場でレース大会。
14（月）●政府、保険会社に総額六三五六万円の助成金融資。震災時の火災保険支払いに充当。
15（火）●神戸海洋気象台が竣工、落成式。
16（水）●メキシコ大統領、日本人移民を歓迎と声明。
17（木）●震災で休館の東京帝室博物館が再開。
18（金）●朝鮮人労働者中心の全朝鮮労農総同盟結成。
19（土）●鉄道省、青函航路に日本初の客載車両渡船「翔鳳丸」を就航。乗客定員八九五人。
20（日）●宮澤賢治、詩集『春と修羅』を自費出版。
●東京市に下賜された芝離宮庭園が一般公開。
21（月）●愛媛女子師範学校で生徒一五〇人に軍事教練。
22（火）●日本自動車協会、東京市内の自動車台数一万台達成祝賀会を上野・精養軒で開催。
23（水）●廃艦「伊吹」、一四万円で川崎造船所が落札。
24（木）●都市計画委員会、逓信省の電柱を一掃し共同溝埋設案を、三〇㍍幅道路で実施と決定。
25（金）●第一回生糸販売組合大会、松本市で開催。
26（土）●日本初のボクシング・タイトルマッチが日比谷音楽堂で行われる（フライ級とライト級）。
27（日）●安部磯雄ら、日本フェビアン協会結成。
28（月）●英、金本位制に復帰。
29（火）●中学入試の受験勉強のため近視、食欲不振、不眠などが多い、との医師会調査が新聞に。
30（水）●復興局、東京の区画整理工事を開始。

朝日新聞社

▲鉄筋コンクリート建て小学校（5月26日）震災で工事が遅れていた東京・麹町の番町小学校が落成。屋上運動場（写真）、雨天体操場、地下プールなどのある3階建て。「日本一近代的」で、復興小学校のモデルとなった。

▶戦艦「津軽」爆沈（5月27日）軍縮条約により、廃艦が決まっていた。日本海海戦記念日のこの日、ロシア艦の「パルラダ」を改装した「津軽」は、横須賀港沖合で標的となり、次々に空爆、魚雷を受けた。公開実験のため5万人が見学、最後の雄姿を見届けた。

「国際写真情報」／国際フォト

証言・あの日この日
南原　繁（34）

7月19日（土）〈帰ってきた横浜はみじめだったね。みる影もなかった。大震災でくずれた波止場の石がそのままになっていて、その中にやっと入ったほどだった。大震災の翌年の七月十九日だったかと思います。親戚のものが迎えに来てくれて、その晩は東京に一泊。翌日、すぐ沼田にまいりました〉（南原繁『南原繁回顧録』）

3年間のドイツ留学から帰国した南原繁が、最初に見たものは、前年の関東大震災で見る影もなく荒れはてた横浜港の姿だった。しかし、南原にはさらに心配なことが待ち受けていた。3年間、群馬県沼田町の実家に残していた妻が病床にあったからだ。南原は、さっそく妻子のもとへ。妻は駅まで迎えにきてくれたが、しかし翌年亡くなる。やがて東大教授、東大総長として学界の頂点に立つ南原も、この頃は苦難の連続だった。（山崎行太郎）

▶華族令嬢が、世界一周機に感嘆（5月22日）女子学習院の学友と霞ケ浦航空隊を終日見学した。写真右から伏見宮敦子、閑院宮華子、伏見宮知子、竹田宮禮子、北白川美年子、同・佐和子、朝香宮紀久子。

朝日新聞社

◀海軍の気球、日比谷に落下（5月1日）3人の水兵が操縦、所沢飛行場を出発した「第4号」気球が千葉に向かう途中、メーデー行進中の日比谷公園近くに不時着。大騒ぎになったが、落下速度が遅く怪我人はなかった。

「国際写真情報」／国際フォト

▶世界一周の米機、霞ケ浦に着水（5月22日）3月17日、米陸軍飛行士の乗る4機が、カリフォルニア州サンタ・モニカを出発。途中、司令機を失いながら、この日大歓迎の中、来日した。3機は9月、世界一周をはたした。

「国際写真情報」／国際フォト

大正13年5月

1（木）●二四の東京市設市場で蚊帳を一斉発売。本麻物は市価より二割安の一五円、綿物も六円。
2（金）●京城帝国大学を設置（大正15年4月開校）。
3（土）●横浜株式取引所が日本初の放送無線電話設置。
4（日）●独国会選挙、ナチスと共産党が躍進。
5（月）●保険各社、震災罹災者に保険金の一割程度を「見舞金」として支払い開始。
●ココ・シャネル、香水「シャネルNo.5」発売。
6（火）●歌舞伎の新富座、活動写真専用館として再開。
7（水）●東京・女学校校長会で「指が太くなるから」と家事嫌がる生徒増加が話題に、と新聞に。
8（木）●蔵相・勝田主計、中国の政変で回収不能となった西原借款（大正7年締結）の弁明書発表。
9（金）●鉄道省、一、二等待合室全廃。三等のみ。
10（土）●第一五回総選挙、護憲三派が大勝。
11（日）●ドイツのF・シュルツ、八時間四二分九秒のグライダー滞空世界最長時間を記録。
12（月）●政府、皇室の不要地四万余㌶の払い下げ告示。
13（火）●東北地方に大霜害、桑園がほぼ全滅と新聞に。
14（水）●ロックフェラー医学研のグラント博士が来日。
15（木）●赤井米吉が明星学園を設立、開校。
16（金）●浅草・金竜館で、マンガ映画「ノンキナトウサン」（原作・麻生豊）を上演、大評判となる。
17（土）●立正大学（日蓮宗大学を改称）、設立認可。
18（日）●梁瀬自動車（現・ヤナセ）、車陳列室を開設。
19（月）●斎藤実朝鮮総督、国境巡視の途次、鴨緑江で「匪賊」に狙撃されるが被害なし。
20（火）●日本産業協会、海外貿易功労者を表彰。
21（水）●港湾調査会、長崎など全国五港湾拡張を決定。
22（木）●赤坂離宮内でチフス発生、大消毒実施。
23（金）●内務省、震災後の住宅不足解消のため㈶同潤会を設立。同潤会アパート・住宅建設へ。
24（土）●東京市、大震災恩賜金は遺族のみに限り、一家全滅家族の相続者は資格なしと発表。
25（日）●南海鉄道の労働者がスト（7月11日組合敗北）。
26（月）●平沼騏一郎ら国家主義団体・国本社結成。
27（火）●戦艦「津軽」、横須賀沖で公開爆破。
28（水）●花嫁を連れた日本人移民二二一人、排日法の施行前サンフランシスコへ向け横浜を出発。
29（木）●岡山県財田小学校で児童差別発言をめぐり水平社児童が同盟休校（6月17日、校長ら謝罪）。
30（金）●全国小学校女教員会創立。会員一万余人。
31（土）●フランス現代美術展開催。警視庁、ロダンの彫刻「接吻」など四点を公開禁止処分。

岡村健太郎

「現場」を歩く 山崎

本邦初のウイスキー蒸溜所にこめられた起業家の"スピリッツ"

山本徹美

▲椎尾神社の鳥居越しに、山崎蒸溜所の施設が見渡せる。道路右手は醸造・瓶詰所、左手は貯蔵庫とゲストハウス。

大正一三年一一月一一日、豊臣秀吉が明智光秀を破った古戦場で知られる天王山の麓、山崎（大阪府三島郡）に本邦初のウイスキー蒸溜所が竣工する。大阪に本社をおく寿屋（資本金二〇〇万円）が同年四月から建設を進めていたもので、サントリー創業者・鳥井信治郎社長（四五）は同社役員が全員反対する中、

「自分の仕事が大きくなるか、小さいまま終わるか、やってみんことにはわかりまへんやろ」

と押し切る。二〇〇万円もの巨費を投じた"天下分け目の"工場開設である。

当時、国内で販売されていたアルコール含有飲料のほぼ半分は、輸入洋酒が占めていた。その総額は年間約二〇〇万円。国産ウイスキーを生産すれば輸入赤字を減らせるし、いずれウイスキー需要は増大する、と鳥井社長は考えた。幸いに寿屋は甘口ワイン「赤玉」の製造・販売で業績を伸ばしていた。その利益をウイスキーに注ぎこもうというのである。

蒸溜所の選定に関しては英国醸造学の権威、ムーア博士に依頼、日本の全国各地で採取した水を送り、水質検査と試験醸造により山崎が最適、との鑑定結果が下った。醸造蒸溜技師はスコットランドに留学、ウイスキー造りを学んだ経験を持つ竹鶴政孝（後のニッカウヰスキー会長）を招聘、さっそく生産にかかる。

国産へのこだわり

サントリー山崎蒸溜所を訪ねてみた。三万三千余坪の敷地の一画に錆びたポットスチル（蒸溜器）が展示してあった。大正一三年に稼働した第一号器で、これによって生産された蒸溜液すなわち原酒は樽詰めされ、熟成するまで貯蔵された。

昭和四年四月一日、「断じて舶来を要せず。吾に国産至高の美酒。サントリーウイスキー白札」と新聞などに広告を打って発売。ジョニーウォーカー赤ラベルが一本五円に対して、白札は四円五〇銭と強気の値段だった。ところが売れ行きはかんばしくなく、蔵出し量は一〇二石（約一八キロリットル）にとどまる。鳥井信治郎は不評の原因を原酒の焦げ臭い香りにあり、と分析。

「そのにおいは、原料の麦芽を乾燥させる過程でピート（草炭）を燃やしすぎたのが原因でした」（大西正巳工場長）

製法上でのトライアル・アンド・エラー（試行錯誤）を重ね、やがて日本人向きの商品「トリス」「角」「オールド」などが生産され、スコッチを凌駕する。今や洋酒の輸入量は二〇パーセント余り。山崎蒸溜所だけで年間数千キロリットルの生産能力を持つ。

「創業者は『やってみなはれ』が口癖で、そのチャレンジ精神が技術開発の原動力となった。伝統では英国に負けても、品質、技術では負けません」（同前）

原酒「山崎」を口に含んでみた。起業家のスピリッツ（気概）がじわりと伝わってくるようである。

サントリー提供

▲鳥井信治郎が工場建設計画に着手したのは前年秋。13年4月には、ウイスキー製造免許第1号が下付された。

▶鶴見で懸賞写真競技大会（6月15日）週刊誌「アサヒグラフ」が主催。日本舞踏大会も併催され、3万人以上の観客が集まった。写真はモデルたちで、左から二人目は岡田嘉子。

朝日新聞社

◀大阪鉄工所争議が解決（6月21日）賃上げ、解雇手当を要求して、因島工場の労働者が5月にストライキに突入。造船不況を背景に争議は長引いたが、やっと労使調停にこぎつけた。写真は8日のデモ。

朝日新聞社

国際写真通信／国際フォト

▲「護憲三派内閣」成立（6月11日）憲政会・立憲政友会・革新倶楽部が大勝後、加藤高明（憲政会、前列右から二人目）を首班に、総選挙に基づく初めての政党内閣が成立した。

▼米国に「花嫁」どしどし入国（6月）日本人移民と「写真結婚」した女性たち数百人が、シアトル港に到着。移民全面禁止となる新移民法施行の7月1日を前に、アメリカ上陸をはたそうと、臨時客船4隻が用意された。

▶第1回全日本テニス選手権大会開く（6月1日）東京・麹町でシングルス19人、ダブルス10組が熱戦。写真右から7人目が、シングルス優勝の田村富美子。

◀ベーブ・ルース、兵役（6月）米大リーグ、ニューヨーク・ヤンキースの主砲（19、右）が国民軍に入隊。1918年から前年まで連続ホームラン王だった。

朝日新聞社

大正13年6月

1(日)●荻野久作、黄体と子宮粘膜の周期的変化の関係を発見、受胎日の推定が可能と学会で発表。
2(月)●海運不況進み、造船各社の欠損増大と新聞に。
3(火)●カルピスの黒人イラスト広告が「東京朝日新聞」に初登場。作者は独人・デュンケル。
4(水)●米、マディソン広場に戦没市民祈念の光灯る。
5(木)●天皇ご成婚大奉祝会、二重橋前で開催。
6(金)●閣議、農商務省から農務省の独立を決定。
7(土)●清浦内閣総辞職（9日、加藤高明に組閣命令）。●帝国ホテルでの外国人中心の舞踏会に「亡国淫風舞踏中止」と六〇人が日本刀かざし乱入。
8(日)●大阪商船、イギリス製の快速船「蓬莱丸」を神戸—基隆間に配船。四日から三日に短縮。●東京医師会、アメリカ人の治療を断る。
9(月)●パリ—東京間初の連絡飛行で、仏機が所沢飛行場に到着。四六日間、一二〇時間の飛行。
10(火)●東京帝大セツルメント、本所にハウス建設。
11(水)●第一次加藤高明内閣成立（護憲三派内閣）。外相・幣原喜重郎、蔵相・浜口雄幸。
12(木)●初の地下鉄、東京—浅草間の施工許可。
13(金)●小山内薫・土方与志らの築地小劇場が開場。第一回公演はゲーリング作「海戦」。
14(土)●仏、エリオ急進社会党内閣成立。
15(日)●第一回日本女子オリンピック大会開催。
16(月)●中国で黄埔軍官学校開設、校長・蔣介石。
17(火)●コミンテルン第五回大会、モスクワで開催。佐野学・徳田球一・片山潜らが出席。
18(水)●内務省、反米運動の厳重取締りを通達。
19(木)●東京市、劣悪な条件下の仮設小学校児童の健康考慮し授業短縮、夏休みの繰り上げを実施。
20(金)●初の大型潜水艦「伊五一」が呉工廠で竣工。
21(土)●出口王仁三郎、内モンゴルで張作霖配下の官憲に逮捕される（7月27日、大阪で再収監）。
22(日)●東京・小石川の高級住宅分譲地「大和村」開村。
23(月)●舞鶴港で重油貯蔵庫爆発。損害は数十万円。
24(火)●反米風潮から米風ダンダラ模様の水着すたれ、空色・スカートつきなどが人気、と新聞に。
25(水)●東亜キネマ、マキノキネマを吸収合併。
26(木)●朝日新聞社、東京—大阪間に専用電話設置。
27(金)●大阪の均一タクシー自動車㈱、「円タク」開業。
28(土)●嶋中雄三、青野季吉ら、政治研究会結成。
29(日)●八王子で養育料目的の嬰児一〇人殺しが発覚。
30(月)●国産原油は五年前に九割以上占めたが、国内需要激増で現在は六割、生産も縮小と新聞に。

新しいリアリズムが話題に 野上弥生子『海神丸其他』

築地小劇場の設立など、先駆的な演劇活動で知られる小山内薫の戯曲集『息子』がこの年、東光閣から刊行された。

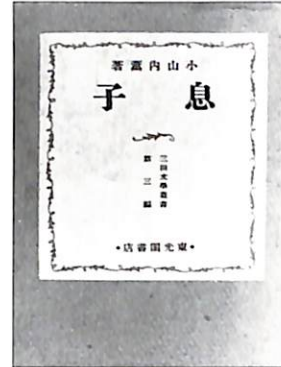
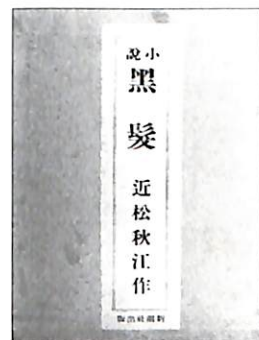
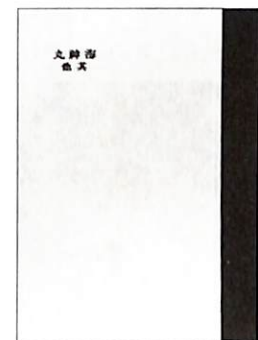
表題作は歌舞伎役者のために書かれたもので、外国作品を翻案した人情時代劇。舞台は、あたり一面雪におおわれたある日の夜半。火の番の小屋の老爺が主役で、これに捕吏と、お尋ね者の金次郎がからんだ。

捕吏は老爺に軽い調子で話しかけるが老爺は取り合わない。舌打ちした捕吏が立ち去ったところで、金次郎が登場する。実はこの金次郎という男、九年前上方へ働きに出た老爺の息子で、金次郎の方は途中で自分の父親だと気づくのだが、老爺は息子が真面目にやっていると信じているから、目の前のお尋ね者が自分の息子だとは気づかない。

そういう設定でドラマは進むが、全体は淡々とした構成になっており、小山内薫の先駆性が読み取れる作品である。またそれにふさわしい、シンプルな装丁の本だった。

また、漱石門下生でもあった作家・野上弥生子の代表的な著作のひとつと目される、『海神丸其他』がこの年、改造社から刊行された。

実際に漂流船の中で起こった、人肉食いを目的とした殺人事件を題材にして、飢餓の極限状況を描いた「海神丸」は、これまでにない新しいリアリズム小説として大いに注目された。事件の特異性もさることながら、それが次第に特殊なことでなくなっていく戦争の時代を予感させた点でも際立っていた。

売笑を稼業とする女性に恋をして、しかもこだわり続ける〝私〟を描いた近松秋江の『黒髪』が、この年、新潮社から刊行されている。きわめて個人的な心情を連綿と書き続ける作家の思いが伝わってくるような、瀟洒にして、凝ったところのある装丁の本だった。

▲小山内薫『息子』
(東光閣、1円50銭)

▲近松秋江『黒髪』
(新潮社、1円50銭)

▲野上弥生子『海神丸其他』
(改造社、1円30銭)

これぞ活動写真の醍醐味! サワショー主演「国定忠治」

この年、「国定忠治」が公開され評判になった。プロデューサーでもあった牧野省三監督が、新国劇の看板スターだった澤田正二郎、通称、サワショーを忙しい公演の合間に一週間だけカメラの前に引っぱり出して撮った、記念すべき作品である。サワショーの演技はまさに舞台のものだったが、クローズアップに耐える豊かな表現力も持っており、芝居に行けない庶民にとっては、サワショーを間近に見る絶好の機会が得られる映画だった。

洋画では、ハロルド・ロイドが、その喜劇俳優としての才能を存分に発揮した「要心無用」(フレッド・ニューメイヤー　サム・テイラー監督)が公開され、人気を呼んだ。恋人に身分をいつわったため、その辻褄合わせにおおわらわというストーリーだが、ギャグあり、スリリングなシーンありで、まさに映画ならではのエンターテインメントだった。

一方、D・W・グリフィス監督による、アメリカ映画史上初の長編劇映画「国民の創生」もこの年に公開された。キャメロン家とストーンマン家に焦点をしぼり南北戦争を描く、壮大なドラマだった。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。

「籠の鳥」(沢蘭子)
「結婚哲学」(アドルフ・マンジュー)
「巴里の女性」(エドナ・パービアンス)

▲映画に出演し人気を呼んだ「国定忠治」の澤田正二郎(中央)。彼の映画出演は、この作品を含めて4本にとどまった。

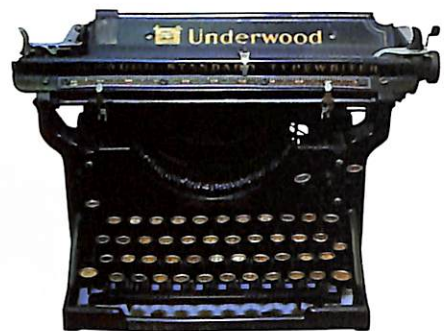
▶「国民の創生」は、大正4年に製作され、日本では9年後に公開されたが、スペクタクルシーンの鮮烈さは失われていなかった。

マツダ映画社提供(三点とも)

▲「要心無用」で、アブナイ演技を連発したハロルド・ロイド。

モボ・モガが愛好した〝時代の最先端〟「コンビ靴」「高級手巻蓄音機」「バウムクーヘン」

◀**モガのお洒落心を支えた化粧品**　この年、資生堂は「資生堂特製水白粉」を発売した。関東大震災後できた東京・京橋の製造工場から生み出された化粧品で、〝特製〟という名称に大きな特徴があった。というのは、価格帯別に銘柄を作って、それを異なる化粧品に統一して使用するという方法を資生堂が採用した、最初の商品だったからだ。〝特製〟銘柄にはほかに〝練白粉〟〝粉白粉〟があり、この水白粉は2円50銭だった。

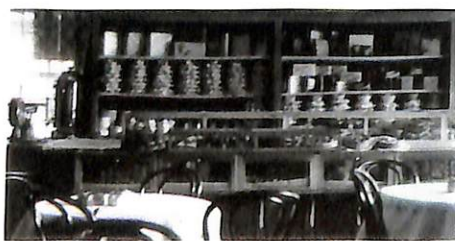
▲**モボが履く洒落た革靴**　銀座あたりをモダンボーイとモダンガールが闊歩した時代、つまりモボ・モガ全盛期において、モボには、だぶだぶの太いラッパズボンに、白と茶のコンビネーションの靴が流行した。それも大塚商店(現・大塚製靴)の「コンビ靴」で、大震災後普及した機械靴(既製品)でなく、昔ながらのオーダーメイドで、しかも手製の靴だった。

▲**タイプライターが求められた時代**　事務機器販売の伊藤喜商店(現・イトーキ)はこの年から、東洋タイプライターが開発した「見出付和文タイプライター」を扱うなど、和文タイプライターを主力商品に据えるようになった。タイピストという、女性向けの新しい職業が注目される時代だったからだ。そして多くのタイプライター販売店がそうであったように、大阪の堺筋店などにタイピスト養成所を設けて、ユーザー養成にも力を入れたのである。

▼**音楽を楽しむ手回し機器**　まだ蓄音機がもっぱら輸入に頼る贅沢品だった時代に、日本楽器(現・ヤマハ)は国産の「高級手巻蓄音機」を開発した。手で巻くゼンマイが動力源だが、速度制御の技術には高度なものがあり、外国産にひけをとらなかった。電気を動力源とする〝電蓄〟開発直前の傑作であった。

▲**大正生まれの風邪薬**　〝お茶で飲む風邪薬〟で知られる「改源」は、この年創業した薬問屋の中西武商店(現・カイゲン)によって、本格的に売り出された。大正7年頃、広島の沢井十字薬舗店主によって開発されていた「改源」を取り扱い、昼はチンドン屋を使って、また夜は社員が一軒一軒チラシを配って歩く地道な宣伝活動で、広くその存在を一般に知らしめたのである。

▶**本格的ドイツ菓子が大評判**　この年、神戸・三宮に〝ユーハイム神戸三宮店〟がオープンした。ドイツ人のカール・ユーハイムとエリーゼ夫人が経営する店だったが、カール自身が菓子職人としての腕をふるった。店で販売した洋菓子は、日本人の好みを配慮した味で評判を呼び、その人気を決定的なものにした。中でも「バウムクーヘン」は、焼きながら何層にも重ねていく手作りの味が受けて、1ポンド2円と高価なものであったが、多くの人に愛され、今なお人気の菓子となった。

ユーハイム神戸三宮店

ユーハイムの創設者、カール・ユーハイムが来日したのは、第1次世界大戦の捕虜としてだった。ドイツ人である彼は、中国・青島に店を構え、菓子屋をいとなんでいた時に敗戦を迎え、捕虜として日本に連行されたのだが、その際、収容所で焼いたバウムクーヘンが評判となり、日本でも菓子店を開くことになった。初めは銀座で、次に横浜で店を開いたが、関東大震災にあい、神戸へやって来て「ユーハイム」をオープンしたのである。写真は当時の店内風景。たたずまいの洒落た店で、多くの文化人たちにも親しまれた。

▲横浜で大震災にあい、神戸で店を開いた。

人物クローズアップ

宮武外骨（五七）

“反骨の人”、資料消失に愕然「明治文化研究会」を設立！

◀資料収集を終えて、東京帝大内の「明治新聞雑誌文庫」に戻ってきた宮武外骨。昭和初年撮影。
吉野孝雄提供（2点とも）

関東大震災から一年余りがすぎた大正一三年一一月、吉野作造（四六）、尾佐竹猛（四四）、石井研堂（五九）、それに宮武外骨（五七）ら八人が発起人となり、「明治文化研究会」が発足した。

関東大震災によって失われたものは多かった。中でも、吉野ら大正デモクラシーをリードする人々にとって、明治時代の貴重な文献・資料が失われたことの意味は大きく、それはみずからの立脚する基盤が足元から崩れ去るほどの、大きな衝撃だった。

宮武外骨にとっても、それは同じだった。幸い、上野桜木町の仕事場と自宅を兼ねる「半狂堂」は無事で、外骨が長年かかって集めた膨大な新聞雑誌などの資料も失われずにすんだが、しかし、外骨は震災による被害を取材する中で、近代の書籍・雑誌・新聞など多くの貴重な資料が消失したことを知り、愕然とする。

こうした危機意識と、その教訓に基づいて設立されたのが「明治文化研究会」だった。研究会はその後、講演会や機関雑誌「新旧時代」の発行を行いながら近代史の資料収集につとめ、その成果として昭和二年、日本評論社から『明治文化全集』全二四巻が刊行される。筆禍による入獄五回、罰金・発禁二九回というこの反骨のジャーナリストは、また近代史の資料収集家であるとともに、優れた研究者でもあった。

宮武外骨は、旧暦の慶応三年一月一八日、讃岐国阿野郡小野村（現・香川県綾歌郡綾南町）生まれ。幼名は亀四郎。生家は代々の庄屋で、父・吉太郎の時代は五百石ほどの小作米があがる大地主だった。

外骨の平等意識と反骨精神は、この家の血筋と言えるのかもしれない。外骨の三代前の当主は、悪代官をたたき斬ったという記録があり、また父親の吉太郎は開明家として知られていて、たとえば被差別部落の人々は、体を張って保護した。こうした家に育った外骨には、悪を憎む意識と差別を嫌う心が、小さい頃から身についていたのである。

明治一五年、外骨は上京して進文学舎に入学。在学中は新聞や雑誌を読みあさり、投稿を繰り返した。

明治二〇年四月、外骨は初の雑誌「頓智協会雑誌」を創刊する。ところが、これが外骨のその後の運命を決めることになった。二二年二月一一日発布の帝国憲法のパロディーを掲載したところ、これが不敬罪となり、禁固三年八月の刑に処せられたのである。

「外骨の反権力は、この事件によって火がついたと思います。パロディー化して自分では洒落たつもりだったのが、不敬罪になったのですから、心外だったでしょうね。明治三四年に『滑稽新聞』を発行しますが、以後徹底的に反権力が貫かれます」

外骨の甥で、宮武外骨研究家の吉野孝雄氏はこう語る。

みずからを“偉大なる狂人”“常識外れのねじけもの”と称した外骨は、昭和二年、東京帝大内に設立された「明治新聞雑誌文庫」の主任となり、同文庫の充実に尽力。昭和三〇年七月二八日、生涯反骨を貫いて老衰で永眠した。八八歳だった。

東京大学法学部付属明治新聞雑誌文庫蔵

▲外骨は、大正から昭和初期にかけての、「棄てるにはおしい」広告絵葉書も収集していた。

▲宮武外骨は、大正14年、博報堂社主・瀬木博尚に新聞雑誌収集の必要を説き、瀬木が基金を寄付。東京帝大法学部の付属施設として、文庫が創設された。昭和2年撮影。

決定的瞬間

レーニンの死と権力闘争！スターリンが握りつぶした一通の「手紙」の衝撃的内容

一九二四年一月二一日の午後六時五〇分、レーニン（五三）はモスクワ郊外ゴールキ村の別荘で死去した。妻のクループスカヤの回想によると、その日の午後、発作がおさまってからスープが与えられたが、胸部でゴボゴボという音がし始めた。彼の目から意識がなくなっていくように見え、医師が懸命に治療をするが、吐血し、ついに痙攣が走った。長い闘病生活（約二年半）のすえとはいえ、党の最高指導者、レーニンの死は国民にとっては大きな衝撃であった。

同日午後七時一五分、スターリン（四四）は、ただちにソビエトの全放送局に「レーニンは死んだ。しかし、レーニン主義は生きている」と放送するように指令。さらに、翌日には葬儀委員会が発足し、すべての地方および共和国党委員会にレーニンの死を通知するとともに、秩序維持の緊急対策をとるように指令した。

レーニンの遺体は、ゴールキから二〇〇人の代議員と党指導者たちに随伴されてモスクワに帰った。そして労働組合会館へ安置され、葬儀は赤の広場で一月二七日に行われることに決定した。

レーニンは一九二二年五月の脳卒中の発作以来、右手右足が麻痺、言葉も不自由になり、一九二三年に入るとほとんど政治的な発言も不可能になっていた。こうした彼の闘病生活の背後では、「レーニンの後継者は誰か」という熾烈な闘争が行われていたのである。

後継者として最も有力視されていたのは、党内左派のリーダーであるトロツキー（四四）であった。これに対してスターリンは、一九二二年の四月の第一一回党大会で書記局長の地位を得てからは、自派の官僚で党内を固め、古参のボルシェビキ有力幹部を抱きこむなどしてトロツキーと対抗した。また一方で、レーニンを頻繁に見舞って忠実な弟子の役割を演じてみせた。

こうした中、一九二三年初頭に口述筆記されたレーニンの「大会への手紙」とその「追記」が重要な意味を持つようになる。手紙にはトロツキーやスターリンなど党幹部の人物評がなされており、さらに追記では、スターリンは粗暴であり書記長にはふさわしくないから、「彼よりも寛容で（中略）気まぐれでない別の人を任命することを提案する」と書かれていた。スターリンは同様に非難を受けているほかの数人の政治局員と話し合った結果、「手紙はしばらく公表しないこととする」と決定。レーニンの遺書は握りつぶされたのだ。

ところでレーニンが死亡した時、トロツキーは病気療養で南ロシアに行くため、チフリスという田舎の小さな駅にいた。そこでスターリンから電報を受け取り、レーニンの訃報を聞く。トロツキーがさっそくスターリンに電話をかけると「葬式は明日だから、君は来ても間に合わないよ。それよりゆっくり養生するんだな」と言われたそうである（『ロシアの革命』河出書房）。この言葉を真に受けて、トロツキーはモスクワに帰らなかった。

全ソ連邦ソビエト大会の追悼式は一月二六日に行われ、スターリンほか主要な幹部が弔辞を読んだが、翌日の「プラウダ」にはスターリンの弔辞のみが掲載された。葬儀は二七日、零下二七度という厳寒の中、一〇〇万の群衆が見守る中で行われた。葬儀の主催者であるスターリンと式に参加しないトロツキーとの対比は、今後、誰がレーニンの後継者となるかを国民に強く印象づけることとなったのである。

▶一九二三年三月に、三度目の発作を起こして以来、病状が悪化し麻痺が進行して、車椅子での生活を余儀なくされたレーニン。すでに、はっきり話すこともできなくなっていた。

▲「革命の聖なる遺物」として、永久保存措置をほどこされ、霊廟に安置された遺体。 ノーボスチ通信社(2点とも)

▼「朝から夜中まで」の舞台装置。村山知義のデビュー作であり、魚やアルファベットを描いた巨大な装置には、ダダイスムや構成主義の影響が強くうかがえる。

美の出会い

トタン屋根の急造建築ながらダイナミックな舞台装置！土方与志らの築地小劇場開幕

大正一三年六月一三日、関東大震災で廃墟となった東京市京橋区（現・中央区）築地二丁目に、日本で初の新劇専門の築地小劇場が、激しいドラの音とともに初公演の幕を上げた。柿落としは、ゲーリングの「海戦」、チェーホフの「白鳥の歌」、マゾーの「休みの日」の三本立てである。

観客に強烈な印象を与えた、土方与志（二六）演出の「海戦」は、ドイツ表現主義演劇の日本での初上演だった。早い台詞が弾丸のように飛びかい、発声法を無視した絶叫や激しい動きは、これまでのどの演劇のものとも違っていた。初めて目にするホリゾント（舞台奥の白い楕円形の壁）に、青い照明をあてた美しい空や海が現れると、背景といえば幕に描いた絵しか知らなかった観客は、一斉に感嘆の声を上げた。

しかし、この劇場の創設が評判を呼んだわりには、観客数ははかばかしくなかった。五日間の公演で、入場者数は客席の六割を埋める一四〇〇人。差別をなくすため客席には等級を設けず、入場料はどの席も一律二円だった。

築地小劇場は、表現主義演劇最盛期のベルリンで演劇を学んだ土方与志が、大正一二年に帰国する途中、シベリア鉄道の車中で劇団設立の構想を持ったことに始まる。土方は演劇界の著名な先輩、小山内薫（四二）を同人として迎え、俳優、演出家ら同志を集め、劇場建設に着手したのである。

土方は東京・築地の借地約二四〇坪に、外装・内装ともに灰色のゴシック・ロマネスク様式の小劇場を建設。トタン屋根から雨や風の音が聞こえる急造のバラック建築だったが、最新の舞台設備と定員四六八の客席を備えていた。客席は舞台と同じ幅に作られ、後部を高く傾斜させて、どの席からも舞台を十分に見ることができた。

舞台は四つの部分に分けられ、それぞれの舞台は、六尺の深さまで自由に下げられるように設計されていた。また、舞台前面の両側は客席に突き出ており、ここから登場できるようにもなっていた。

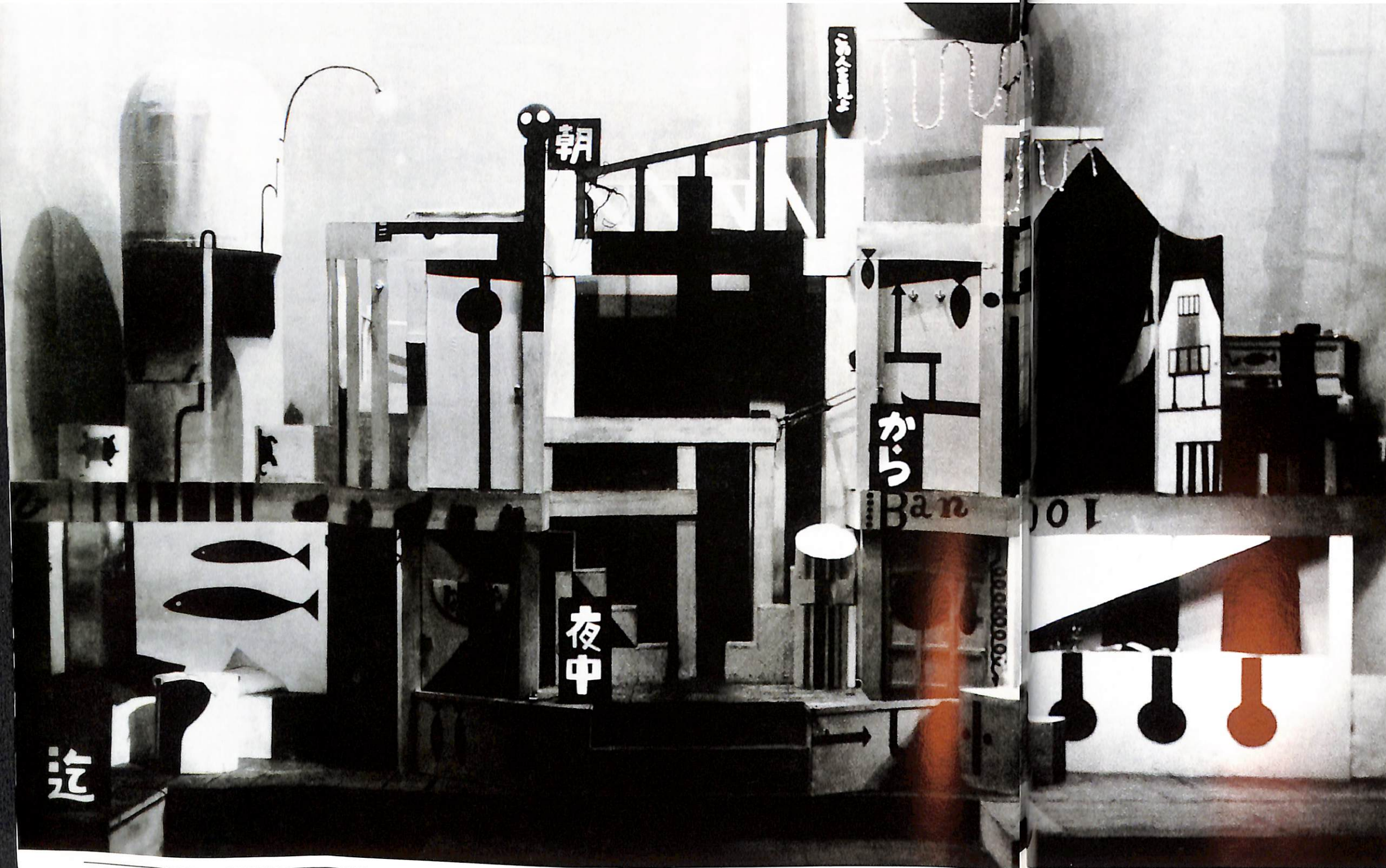
舞台の上部はドーム状のクッペル・ホリゾントを備え、照明はフットライトを排してスポットライトを使い、光が上や横からあてられた。舞台装置から見ても、これまでの額縁的・絵画的な舞台から、構成的・立体的でダイナミックな舞台へと、大きな発展をみたのである。建設費用のおよそ一三万円は、伯爵家を継いだ土方本人が全額負担した。

柿落とし公演の当時、メンバーは三六人。演出部に小山内と土方、演劇部研究生に千田是也（一九）、山本安英（一七）、田村秋子（一八）、丸山定夫（二三）、効果・照明に和田精（三一）、舞台装置に吉田謙吉（二七）らが参加。新劇では、わが国初の衣裳部がおかれ、土方夫人の梅子が担当した。

土方らはこの年に一八回の公演を行ったが、入場者数は第二回が九〇〇人、第三回が六九〇人、第四回が六三〇人、第五回が七四〇人……と苦しかった。その中で、この年の一二月に公演した第一七回目のカイザー作「朝から夜中まで」が四〇〇〇人を超すヒット。舞台美術は、ベルリン帰りの気鋭、村山知義（二三）が手がける。ベルリンで美術展、舞踏会、音楽会などをめぐり、表現主義やフォービスム、ダダイスム、イタリアやロシアの未来派らへの理解を十全に深めてきた村山は、この舞台芸術でデビューし、以後、劇作家・演出家として本格的に演劇活動を開始する。

「民衆のための演劇」をめざした築地小劇場は、しかしながら知識人、学生らの支持以上には広がらず、経営難が続いた。昭和三年一二月二五日、土方とともに劇場を支えてきた小山内の死を契機に、劇団内部は混乱し、昭和四年に土方らの「新築地劇団」と、残留組の「劇団築地小劇場」とに分裂。この間に、築地小劇場は八四回の公演をはたす。世界の同時代の演劇を積極的に取り入れるとともに、日本の創作劇で作家を育成。滝沢修、杉村春子ら数多くの優れた俳優を生み出して、「築地小劇場の時代」と言われるエポックを開き、演劇史に輝く功績を残した。

『日本現代演劇史』（白水社）を著しサントリー学芸賞を受賞した大笹吉雄氏は、「築地小劇場は、現代演劇にかかわるすべてのものの母体になった。それは演劇に対する考え方、役者、劇作家、舞台装置や裏方にまでおよんでいる」と語る。

早稲田大学演劇博物館提供（3点とも）

▲第49回公演ポスター。出し物は「朝から夜中まで」とチャペック作「人造人間」。

▲初公演「海戦」の舞台。テンポの早い台詞は聞きとりにくい箇所もあったが、舞台から伝わる熱気に観客はショックを受けた。

20世紀博物館

花王《清潔と生活》小博物館

東京・墨田区

日用品にも歴史ありを再認識させられる“石鹼コーナー”の目玉あれこれ

桑原茂夫

東京の下町に縦横に張りめぐらされ、かつては輸送船が往来していた運河にそって、今でも各種工場が昔の名残をとどめている。花王のすみだ事業場（工場もある）もそのひとつで、その一角に「花王《清潔と生活》小博物館」がある。

明治二三年（一八九〇年）に初めて花王石鹼が売り出されてからちょうど一〇〇年経ったのを記念して、平成二年この小博物館はオープンした。

同社の創業は、花王石鹼発売より三年前の明治二〇年のこと。日本橋・馬喰町に小間物屋「長瀬商店」を開いたのが最初。店主がハイカラ好きで、輸入品の取り扱いが多かったが、中でも人気を呼んでいたのが石鹼で、店主はそれなら国産でいいものができないだろうかと考え、とうとう開発し、販売にこぎつけたのが「花王石鹼」なのである。

▲150平方メートルほどの小博物館だが、内容は充実している。手前左には、江戸時代の銭湯の模型がある。 奥村健太郎

この小博物館には、石鹼のほか、シャンプー、洗剤などのコーナーがあるが、やはり石鹼コーナーが充実している。ここには、当時売り出されていた国産石鹼や、花王石鹼を売り出した長瀬商店の堂々たる模型やゆかりの看板類などが、花王石鹼のワキを固めている。

さて、初めての花王石鹼だが、展示されているものを見ると、これはもう高級品に違いなく、一個一個洒落たデザインの紙に包まれ、三個セットだと、なんと桐の箱に納められていた。しかも石鹼を包む紙はペラ一枚ではなく、一〇ページほどの小冊子になっていて、その表紙が包み紙に見えるのであった。

小冊子の中身は、当時著名な薬学者だった高峰譲吉博士による花王石鹼の分析証明書と、石鹼の効能を詳しく記した一種の能書きだった。そういう能書きを必要とするほどに、石鹼がまだ一般的なものではなかったということを、この小冊子は示してもいるわけだ。

それが次第に普及し、いよいよ大衆的なものになっていく過程で、パッケージも変わっていく。おなじみの月のマークがマイナーチェンジを繰り返してきた様子も展示されているが、昭和一八年には、なんと月の向きが逆転しているのだった。右側が欠けた形の月だったのが、三日月になった。これから満月に向かうというプラスの印象を強めたのである。

▲花王石鹼発売当時の「長瀬商店」の模型と、特約店などの看板。この「長瀬商店」には薬品調合所も備わっており、店主・長瀬富郎自身の手で石鹼も作られていた。

▲花王石鹼発売以前の国産石鹼。明治6年に、横浜で生まれた「堤石鹼」のほか、皮膚によいとされる「うぐいすの糞」（右端）も展示。

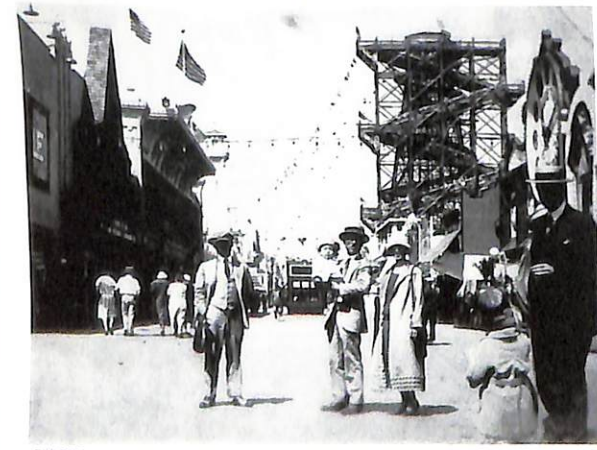
ところで、“花王”という名称だが、“顔”の強調に由来している。その“カオ”という音からまず“華王”という文字が描かれ、それでは印象が重かろうということで“花王”になったのだという。花という文字のイメージが強いために、“顔”からきた名称だとは想像もしなかったから、ちょっと驚かされた。

それにしても、今では貴重品ではなく、日用品として存在している石鹼にも、なるほど豊かなストーリーがあるのだということを、あらためて思い知らされる博物館であった。

●花王《清潔と生活》小博物館
東京都墨田区文花二—一—三
☎〇三—五六三〇—九〇〇〇
JR総武線亀戸駅下車、徒歩一二分
開館時間＝八時半〜一七時
休館日＝土・日曜日、祝日、年末年始、会社休業日
入館料＝無料、電話で問い合わせが必要

▲昭和30年に発売された「フェザーシャンプー」など。当時の新聞広告のヘッドコピーに「5日に1度はシャンプーを」とあるのが、今から見るとおかしい。

「〝写真結婚〟はジャップの悪知恵！」日本人は米国に同化できないと「排日移民法」成立！

▲大正の初めに、ロサンゼルスで食堂を開いた日本人。カウンター式の店で、壁面にはヌードル、コーヒーなどと書かれたメニューが。 古川繁郎蔵

外出時は帽子をかぶり、人前ではレディ・ファーストをよそおい、戦時国債も購入するなど、必死で〝米国人〟になろうとした明治生まれの日本人移民たち。彼らの懸命な努力も、「日本人は米国に同化できない」という偏見の前に報われることがなかった。一九二四年七月、日本からの移民がいっさい禁じられたのである。

▼大正13年、ロサンゼルスの遊園地を訪れた日本人一家。

新妻さがしに帰郷した日本人移民たちの悲哀

一九二四年（大正一三）五月一五日の横浜港は、出迎えの親族、野次馬の異様な興奮に包まれていた。午後四時に入港した「プレジデント・ウィルソン号」から、米国帰りの日本人男性二七〇人が、祖国の港に降り立ったのである。

二七〇人は、同月二日にサンフランシスコ港を出発。全員が独身者で、ひとえに結婚相手を見つけるための帰郷だった。ひとつの船で帰国した日本人の数としては最大だったという。新聞各紙は、「嫁さんを探しに日本青年 〝駆逐案〟が取り持つ縁かいな」と面白半分に書き立てたが、本人たちは真剣そのもの。

妻さがしの帰郷をする羽目となった〝駆逐案〟とは、七月一日から施行される「新移民法」（日本では「排日移民法」）。その内容は、米国市民になれるのは白人とアフリカ人であり、「市民権を得る資格

▲6月29日、「排日移民法」に抗議するデモが東京で行われた。アメリカが門戸を閉ざしたため、日本人移民はこの後、ブラジルへ向かうことに。「国際写真情報」 国際フォト

のない外国人」は移民になれないと規定したもの。事実上、いっさいの日本人移民を禁止する内容だった。

そこで、法的に米国人と結婚できず、周囲に未婚の日本人女性もいない移民の"嫁取り帰郷船"が、七月の施行前に横浜、神戸などの港にやって来たのである。

その一方で、「北米航路は七月一日までに米国に渡航しようとする若者が殺到して、希望者全員の渡航は無理」（「東京朝日新聞」五月二三日）などと報じた記事が、マスコミをにぎわした。

日本人移民の歴史は、一五三人がハワイへ移住した一八六八年に始まると言われ、榎本武揚が設立した殖民協会（一八九三年）などの移民会社の登場で本格化。農村の余剰人口減らしや、絶好の徴兵逃れになったことから、一〇代、二〇代の若者が、カリフォルニア州やオレゴン州などへ渡航していった。一九二〇年頃で、米国本土にいた日本人は一一万五〇〇〇人にのぼったという。

彼らの出身は広島、山口、和歌山が多く、移住後の職業は農園労働、農業、鉄道労働が主だった。賃金は一八九九年頃で鉄道労働が一日一・一〇ドルから一・二五ドル、調理人は月二五ドルから四〇ドル。いずれも日本の五倍以上の水準である

「移住ブームが起きたのは、先に移住した人々が、つらい労働の実態を書かずに、"金儲けができる国"とアメリカンドリームを吹きこむ手紙ばかり祖国に送っていた点も大きい。黙々と働くこうした日本人から、後に、農業経営者や商店主などに転身する人が次々と出ました」

と解説するのは、日本人移民史に詳しい粂井輝子白百合女子大文学部教授だ。

◀「排日移民法」を上程した米国下院で演説するクーリッジ大統領。法案可決後、日本側の対米感情は悪化する一方となった。「国際写真情報」

▼クーリッジは、「日本のみを排斥の対象としたものではない」と苦しい弁明。

ユニフォト・プレス

ところが、農村の困窮と移民会社の暗躍で渡航者が急増した一八九〇年代から、カリフォルニア州やアイダホ州などで、日本人に仕事を奪われた白人労働者による日本人放逐事件や宿舎焼き討ち事件が発生。さらに、第一次世界大戦後に日米の極東戦略が衝突すると、反日感情が全米に広がり、「日本人は米国に同化できない」という排斥運動へ転化していく。

こうした中で、渡航が在米者の父母子などに限られた一九〇八年の「日米紳士協定」、土地所有が禁止された一三年の「排日土地法」、借地も禁止された二〇年の同法改正と、日本人移民への法的包囲網がせばめられていったのである。

日本の反発は激しく各地で抗議の集会が

日本人移民を完全に禁じる「排日移民法」は、いわば"包囲網の仕上げ"だったが、意外にも徹底した排日の一因は"写真結婚"にもあった。これは、写真で相手を決め、米国に呼びよせる見合い結婚の変形バージョン。粂井教授によると、

「どんな方法でも結婚して、市民権を得られる米国生まれの二世を持つのが、権利を奪われていく移民の唯一の保障でした。わが子名義で土地を購入すれば、農業などを続けられたわけですから。ただし、写真結婚の資格は資産持ちなどに限られていたため、経営者をよそおって結婚した人もいて、新妻がだまされたと気づいて不和になったり、別の男性と蒸発するようなトラブルも数多くあった」

現地の日本語新聞には、「子ができて写真結婚ヤット無事」などと、笑えない川柳が妻たちから投稿されていた。

一方で、"写真結婚"が奇異な風習に見える米国人には、「米国市民の資格が得られる子どもを生むための、ジャップの悪知恵」にしか映らず、移民の完全阻止を強行する要因になったのである。

当然、「排日移民法」の成立をはばもうとする人々もいた。埴原正直駐米大使（四七）は、「法案は日米関係に重大なる結果をおよぼす」とヒューズ国務長官へ書簡を送付。ところが、「重大なる結果」が反発を買い、H・ロッジ上院外交委員長から「覆面の威嚇」と糾弾され、大使は法案成立が確実になると外務省へ辞意を表明した。

クーリッジ大統領（五二）にしても、外交的配慮から、強硬案の軟化を議会へ働きかけたが、結局は政治的なしがらみで失敗。「議会の取った手段ははなはだ遺憾である」という異例の声明を発した。

こうして「排日移民法」は、一九二四年五月一五日に下院と上院で可決され、七月一日から施行されたのである。

「排日移民法」に対する日本の反発は激しかった。新聞各紙は共同抗議宣言を発表（四月二一日）。三万人が東京・両国の国技館に集まってシュプレヒコールをあげた対米国民大会（六月五日）のほか、各地で抗議の県民集会が開かれている。

そして、「排日移民法で爆発した日本人の怒りが、今度はアジアから欧米を追い出そうという感情に連鎖して」（粂井教授）、日本人移民を一層、苦境へ追いこむことになる。一九四一年、太平洋戦争が始まると、米国政府は日系人一二万人を強制収容所に収容したのである。

▶写真は日本人移民の子、伊藤豊さん。両親は、大正一二年に太平洋を渡り、ロサンゼルスで写真館と美容院を経営して成功した。

伊藤豊蔵

宝塚歌劇団提供

▲**宝塚大劇場オープン（7月19日）**前年焼失のため再建。4000人収容の3階建て観覧席を完成、収容力増大で入場料の値下げを実現した。大仕掛けの演出、多人数出演など、迫力ある舞台とともに人気は高まった。

▼**出口王仁三郎「凱旋」（7月27日）**中国に理想の宗教国家を建設しようと出立した大本教聖師が、内モンゴルで捕らえられ、九死に一生を得て帰国。マスコミは賞賛の記事で迎えた。

朝日新聞社

毎日新聞社

▲**大阪市電、スト突入（7月3日）**従業員2200人が、待遇改善を要求して職場を放棄。一時は全市の電車が止まったが、市は指導部172人の解雇、学生車掌の登用、運転者募集と強気に対応。11日、争議団は無条件敗北、職場に復帰した。

▲**高松宮、海軍兵学校卒業（7月24日）**後に大本営海軍参謀をつとめる第一歩をしるした。写真は、大阪朝日新聞社へ立ち寄った際の記念写真。左は村山龍平社長。

▼**パリ五輪開幕（7月5日）**後にターザン役で有名になった、米のワイズミューラーが競泳3種目優勝。日本は、レスリングの内藤克俊の銅が光った。写真は開会式。

毎日新聞社

朝日新聞社

▼**日本一周飛行に成功（7月31日）**毎日新聞社の水上機「春風号」が23日、大阪・木津川尻飛行場を出発。鹿児島—福岡—秋田—北海道—霞ケ浦のコースを経て、4395キロ、33時間48分の空の旅を終えた。

毎日新聞社

大正13年7月

1（火）●メートル法施行（官庁など一〇年猶予）。
●松竹蒲田撮影所所長に城戸四郎が就任。

2（水）●元首相の元老・松方正義死去、八九歳（12日国葬。西園寺公望が唯一の元老となる）。
●大阪乗合自動車㈱営業開始。「青バス」運行。

3（木）●大阪市電スト決行（～11日、組合敗北）。

4（金）●不足の二六九教室を夏休み中に増築と東京市。

5（土）●第八回オリンピック、パリ大会開幕（10日、レスリングで内藤克俊が銅メダル）。

6（日）●贅沢品の関税一〇割増を閣議決定（31日実施）。

7（月）●王子製紙、五〇万ドルの外債成立。

8（火）●逓信省、震災で通帳焼失の貯金に対する無制限・即時払いを取り止め。

9（水）●相模灘で初の空爆実験、廃艦「石見」沈没。

10（木）●金沢・犀川大橋の渡橋式が行われる。

11（金）●仙台の宮城刑務所で出火。消火中、重罪犯九人が逃走、即刻発見の三人以外は行方不明。

12（土）●富士山頂は六〇年ぶりの積雪・結氷、と新聞に。

13（日）●青木勝ら北アルプス前穂高岳北尾根登攀成功。

14（月）●横浜十五銀行で天井落下、作業員七人死亡。

15（火）●宝塚大劇場竣工（19日柿落とし）。

16（水）●米、ハワイ在住日本人の米本土転入を禁止。

17（木）●囲碁の団体、日本棋院創立。

18（金）●初の外航ディーゼル貨物船「赤城山丸」が竣工。

19（土）●復興院、東京市内「広場・辻」の改名発表。上野広場→上野駅前、萬世辻→須田町など。

20（日）●白井喬二の大河小説「富士に立つ影」が「報知新聞」で連載開始（～昭和2年7月）。

21（月）●東京市、市営バスの三割減車・路線整理を決定。

22（火）●小作調停法公布（12月1日施行）。争議の際は当事者申し立てにより裁判所が調停を行う。

23（水）●司法省、壬申戸籍の差別記載抹消を指示。

24（木）●東京で違法の人身周旋業が横行、と新聞に。

25（金）●南海鉄道、浜寺公園内にテニス場を新設。

26（土）●大蔵省、地方銀行の合同促進を地方長官（知事）に通達。頻発する弱小銀行の取り付けに対応。

27（日）●大泊—小樽間連絡船の「大礼丸」が能登呂岬沖で衝突沈没、一九六人死亡。

28（月）●東京市内の居住外国人は震災で四割減少し一二三四人、中・英・米の順と市統計局。

29（火）●山陰本線・谷田トンネルが崩落、一三人圧死。

30（水）●警視庁の野犬狩り、一月以来六〇〇〇頭に。

31（木）●鼠ケ関—村上間開通。羽越本線が全通し、山陰地方をのぞく日本海側の縦貫鉄道完成。

朝日新聞社

証言・あの日この日
岸田劉生（33）

11月16日（日）〈また日記を五日ばかりためてしまった。これからかくところ。今日は十時過おきる。昨夜はまた木村君に引っぱられて茶屋へ行ってしまったがどうもいやだ。あんな遊びは全く自分をひくいものにする以外何の楽しみもない。しかしつい好奇心と女との興味から予覚をしながらつい木村へ行ったりしたのだがもうもう決していやだと思う〉（岸田劉生『劉生日記』）

早世した画家・岸田劉生は、多芸多才の人だった。「白樺」の武者小路実篤や志賀直哉をはじめ友人も多く、「白樺」や「改造」の常連執筆者でもあった。しかし、関東大震災後、京都へ住まいを移してからは、次第に茶屋遊びに深入りし、放蕩三昧の日々を送るようになる。帰宅するたびに深く反省するのだが……。この日も日記を書きながら深い自責の念に悩まされる。（山崎行太郎）

▲**火星、地球に大接近（8月23日）**363年ぶりの到来とあって、建築中の東京・三鷹の新天文台では前夜から観測準備で大忙し（写真）。物干し場や往来でも空を仰ぐ人々の姿が目立ち、「明けの明星」金星を火星と見誤る人も多かった。

▶**福島の入山炭坑でガス爆発（8月9日）**坑内の76人のうち75人が死亡。原因は坑内ガスへの引火だった。2年前にロープ切断で約40人が死亡、この年2月にも火災で13人の死者を出していた。

朝日新聞社

▼**ドーズ案採択（8月16日）**ロンドン賠償会議で米国が提起。ドイツを米が援助、賠償支払い方法を変更した。条約締結後、大量の米資本流入で、ドイツ経済は一時立て直しに成功した。写真は会議の各国代表。

毎日新聞社

◀**大阪に「青バス」登場（7月2日）**3月に創業した大阪乗合自動車が、12人乗りフォードT型車80台を購入、車体を青色に塗り営業を開始した。1区間10銭（市電は6銭）。折からの市電ストと重なったため、堺筋線、南北線、谷町—上本町線などどの路線も超満員、好調なスタートを切った。写真は大阪府庁前にそろった青バス。

▶**甲子園球場誕生（8月1日）**阪神電気鉄道会社が巨費を投じ、西宮市に遊園地とともに開発。日本一の広さ、約6万人の観客席を誇った。13日には、さっそく第10回全国中等学校野球大会を開催した。

毎日新聞社

大正13年8月

1（金）●甲子園野球場が完成（13日、第一〇回全国中等学校野球大会を開催）。

2（土）●東京・横浜両市に防火建築への補助が決まる。

3（日）●摂政宮・同妃、福島県翁島へ新婚旅行に出発。

4（月）●欧米で人気の日本人俳優・早川雪洲が帰国。

5（火）●米新聞にマンガ「アニー」連載開始。

6（水）●東京府、小学校の教員不足解消のため教員検定試験の年二回実施を決める。

7（木）●左団次一座、初の中国公演に神戸を出港。

8（金）●英労働党政権、ソ連と通商条約を締結。

9（土）●福島県入山炭坑でガス爆発、七五人死亡。

10（日）●銀座界隈の飲食店は過当競争ぎみ、と新聞に。

11（月）●近畿検閲官会議、一二歳以下の曲芸を禁止。

12（火）●日本興業銀行、西原借款資金借り替えのため政府保証興業債券二二〇〇万ドルを米で発行。

13（水）●政府、政務次官・参与官を新設。

14（木）●松本英一監督、沢蘭子主演「籠の鳥」（帝国キネマ）封切。前年発表の主題歌も大ヒット。

15（金）●土田杏村ら自由大学協会結成。

16（土）●大連の龍口銀行休業、大連地方に恐慌発生。

17（日）●大阪府実施の商店一斉検査で二割五分が量目不足、三割は不正計量器使用が判明と新聞に。

18（月）●絹織物輸出で貿易不振打開を、と政府声明。

19（火）●甲子園で広島商が松本商破り初優勝。

20（水）●復興局職員の収賄が発覚（復興局疑獄事件）。

21（木）●「国民新聞」、初めて天気図を掲載。

22（金）●大蔵省、地方普通銀行に重役の銀行私物化防止など三〇項目の業務改善を通達。

23（土）●第一回全国中等学校水泳大会、東京府下の金子プールで開催。大阪・茨木中学優勝。

24（日）●麻雀が学生らの間で大流行、と新聞に。
●イブン・サウード、ヒジャーズ王国を攻撃（10月13日、メッカ占領、独立へ）。

25（月）●北海道・小樽港の修築竣工式挙行。

26（火）●陸軍最高会議、本土四個師団廃止・幼年学校二校廃止・新兵器拡充など軍制改革を決定。

27（水）●軍事教育強化の文部と、軍縮で失職将校救済の陸軍両省、将校の学校派遣を協議と新聞に。

28（木）●東京・乃木神社が、無格から府社に昇格。

29（金）●独議会、一六日のロンドン賠償会議で採択のドーズ案を承認（9月1日実施）。

30（土）●名古屋市の小学校長七人、不正行為で休職。

31（日）●嗜眠性脳炎患者は全国で五〇〇〇人突破、広島で一七人など死者も多い、と新聞に。

月形樺戸博物館／月形町教育委員会提供

▲「脱獄王」五寸釘の寅吉が出所(9月3日) 150センチの小柄ながら強盗、強姦、放火未遂などを繰り返し、脱獄は7回を数えた。模範囚ぶりと72歳の高齢から、網走刑務所を仮釈放(中央)となった。

「国際写真情報」／国際フォト

▲近衛兵に日本初のメンタルテスト(9月10日) 除隊後の就職難が深刻なため、東京の各師団現役兵7000人に、東京帝大心理学教室が中心になって実施。職業適性を調べ、就職時の参考にさせた。

「太陽」

▶東京・三鷹に新東京天文台(9月11日) 広い敷地を求め麻布から移転、この日竣工した。屋根の回転する子午儀室、屋根が二つに割れて開く赤道儀室など、最新の設備を誇った。写真は本館。

▼震災共同基金募集デー(9月1日) 震災一周年のこの日、東京婦人連合会などが街頭で呼びかけた。写真は、銀座で募金を手伝う、右から北白川美年子・和子さんと伯爵・有馬頼寧の娘たち。

朝日新聞社

「警視庁百年の歩み」

▶水銀から金を採取(9月20日) 理化学研究所の長岡半太郎が成功と発表。電子を1個追い出すだけで、錬金術師の夢が実現と騒がれたが、実験の誤りだった。

◀福田大将狙撃事件(9月1日) 空砲のため火傷ですんだ(写真)。犯人の和田久太郎は、震災後虐殺された大杉栄の弟子。戒厳司令官だった福田をねらった。

「国際写真情報」／国際フォト

大正13年9月

1(月) ●アナーキスト・和田久太郎、大杉栄虐殺の報復で元戒厳司令官・福田雅太郎を狙撃、未遂。
●東京菓子㈱、明治製菓と名称変更。
2(火) ●鉄道省、記名式無賃キップ全廃を決める。
3(水) ●東京海上火災、上海航路の戦時保険適用決定。
4(木) ●逓信省、サンフランシスコ—ニューヨーク間飛行郵便(1日開通)の取り扱いを開始。
5(金) ●松本女子師範付属小の修身授業を学務課長が非難(27日訓導に休職処分。川井訓導事件)。
6(土) ●大阪・船場署、モルヒネ大量密輸犯三人を逮捕。
7(日) ●ルール地方追放の独人一八万人の帰郷許可。
8(月) ●奉天軍の張作霖が直隷軍に宣戦布告(15日全面交戦、第二次奉直戦争起こる)。
9(火) ●閣議、喪失国債救済を決定(15日実施)。
10(水) ●五販会、日本百貨店協会と改称し再発足。
11(木) ●東京天文台、東京郊外の三鷹に移転完了。
12(金) ●農商務省、小作課新設。課長・石黒忠篤。
13(土) ●中華民国総統、孫文が広東省の自治を宣言。
14(日) ●第一回全国学生連合会全国大会開催、学生社会科学連合会(学連)を結成。
15(月) ●大阪無線局開設。公衆通信の取り扱い開始。
16(火) ●関東地方に大暴風雨、約一〇〇〇戸が浸水。
17(水) ●航空用語調査委、直訳語・新語など混乱する用語を整理・統一、約七〇〇語にまとめ答申。
18(木) ●孫文、軍閥打倒のため北伐開始を宣言(24日、建国大綱宣言を発表)。
19(金) ●日本保険外務員組合が成立宣言書を発表。
20(土) ●長岡半太郎、水銀の還金成功を学会報告。
21(日) ●関東労働組合連合会(アナーキズム系五組合加盟)が創立大会。ＩＬＯ否認などを決議。
22(月) ●幣原外相、中国情勢に関し中国への内政不干渉・日本の利権を擁護すると声明。
23(火) ●嗜眠性脳炎の全国死者は三三一〇人と新聞に。
24(水) ●岐阜県各務原飛行場で陸軍機墜落、二人死亡。
●三菱、東京工業化学試験所を設立。
25(木) ●英とエジプト、スーダンの領有権とスエズ運河からの英軍撤兵で会談(10月3日決裂)。
26(金) ●クリンスレー彗星、東京・京都で観測。
27(土) ●八月の贅沢品輸入額六万円で、奢侈関税引き上げ前の六月の一割以下に激減、と新聞に。
28(日) ●米陸軍航空隊のダグラス機が初の世界一周飛行に成功。一七五日間、正味三六〇時間。
29(月) ●京都建仁寺の大統院、尼僧の放火で全焼。
30(火) ●日本・ペルー通商航海条約調印。

「写真通信」

朝日新聞社

▲京劇の梅蘭芳、来日(10月13日) 帝国劇場に25日から出演するため、劇団員総勢49人で神戸港着。写真は翌日、東京駅で。尾上梅幸(右から二人目)ら歓迎陣で大混雑した。梅は30歳。美声美貌の不世出の女形スターと、評判が高かった。

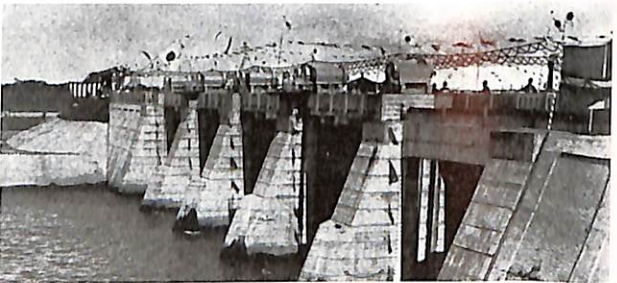
◀明治神宮外苑競技場が完成(10月25日) 1周400、直線200メートルのトラック、6万人収容の観客席を備えた、国内最大の競技場がお披露目。写真は竣工式後に行われた、東京の小学児童による徒競走表彰式。

朝日新聞社

▲菊五郎と猿之助(10月29日) 明治18年生まれの6代目尾上菊五郎(左)、21年の2代目市川猿之助。歌舞伎界を背負い人気を二分する二人が野球で勝負。

「写真通信」

▲死亡動物追悼会(10月5日) 大阪・天王寺の市立動物園では干天続きで、象、ライオンなど多数が死んだため、真宗主催の鎮魂の儀を行った。写真は、霊位に礼拝する象。

▶虎の門事件、大審院公判始まる(10月1日) 史上3回目の大逆裁判で、前年、摂政宮の車に発砲、「革命万歳」と叫んだ難波大助(26)が被告席に着席。11月13日死刑判決、15日に執行された。

「写真通信」

▶荒川放水路、通水(10月12日) 多発する荒川・隅田川の洪水を防ぐため、東京・岩淵から下流約24キロの放水路が完成、長年の洪水から解放された。写真は、分岐点の岩淵水門で行われた通水式。

「写真通信」

大正13年10月

1(水) ●雑誌「子供の科学」創刊。
●東京市市勢調査、人口は一九二万六三一〇人。
2(木) ●国際連盟第五回総会、初の集団安全保障体制めざす「ジュネーブ協定書」採択(英、不参加)。
3(金) ●東京帝大、独から最新地震計を購入。
4(土) ●米野球、W・シリーズで大統領が初の始球式。
5(日) ●セメント連合会設立(一八社で組織、生産制限、販売協定などを実施)。
6(月) ●文部省、ローマ宗教博に出品する日本の人形・絵画などの収集完了、省内に一時陳列。
7(火) ●日本基督教連盟、全国教化運動へ参加決定。
8(水) ●日本・メキシコ通商航海条約調印。
9(木) ●日魯漁業(現・ニチロ)、大正漁業を吸収合併。
10(金) ●内務省、第一回全国労働統計調査を実施。
11(土) ●文部省、専門学校入学試験を各校の随時実施から国家試験に統一(受験者増大)。
12(日) ●東京・荒川放水路が完成、通水式挙行。
13(月) ●関東軍司令官・白川義則、内戦激化の中で「満州」(中国東北部)の治安維持に専念と声明。
14(火) ●閣議、一般会計一億五一五一万円削減を決定。
15(水) ●逓信省、航空機関士の正式養成を決定。
16(木) ●社団法人東京放送局、逓信省に設立を申請(11月29日設立。11月大阪放送局も設立申請)。
17(金) ●日本ゴルフ・アソシエーション創立。
18(土) ●文部省、学校演劇の禁止を通達。
19(日) ●東京府の助産婦資格試験応募者は三五〇〇人。
20(月) ●大倉喜八郎、一八〇万円の米寿の賀を開催。右翼団体が「贅沢」と、暴力的反省強要で問題化。
21(火) ●米・ナイアガラ瀑布観覧車が転覆、七六人死亡。
22(水) ●ベルリンでラインダンスが大流行と外電。
23(木) ●呉佩孚の部下・馮玉祥がクーデターにより北京を占領、「国民軍」を組織(大元帥・段祺瑞)。
●インド象「トンキー」と「ジョン」上野動物園に。
24(金) ●英外務省、英共産党に武装蜂起を指示したとするソ連の「ジノビエフ書簡」を公表。
25(土) ●明治神宮外苑競技場が完成。
●ブラジル、日本人移民三〇〇〇人の入国許可。
26(日) ●御木徳一、大阪郊外で「人道徳光教」を開教。
27(月) ●東京の西の空に、珍しい「細巻雲」出現。
28(火) ●仏の急進社会党政権がソ連を承認。
29(水) ●英総選挙で労働党が保守党に敗北(11月7日第二次ボールドウィン保守党内閣成立)。
30(木) ●第一回明治神宮競技大会を開催(~11月3日)。
31(金) ●大日本水上競技連盟が設立総会。

毎日新聞社

◀**職を求める手、手、手（11月）**大阪では、復興景気も一時的で、緊縮財政による不況感が強かった。職業紹介所は、早朝から求職者でいっぱい。写真は午前5時の大阪・京橋紹介所。

「国際写真情報」／国際フォト

▲**コンクリート潜水函進水式（12月20日）**震災で焼け落ちた隅田川・永代橋橋脚工事の能率アップのため、復興局の技師が若槻内相の見守る中、川底に沈めた。圧搾空気入りの函の中から、水中での工事をする日本初の試み。

「国際写真情報」／国際フォト

▶**女性車掌「赤襟嬢」誕生（12月20日）**東京市が1月に営業を始めた、市営バス・通称「円太郎」の渋谷－東京間などの5台に乗務。人件費削減が目的だったが、ういういしさで人気になった。

「写真通信」

◀**ジンバリスト再来日（11月30日）**大正11年の来日で人気を博した米バイオリン奏者が、12月1日からの帝国劇場で公演のため東京駅に到着（写真）。再びその卓越した技巧で、ファンを熱狂させた。

▼**米大統領にクーリッジ（52）再選（11月4日）**財界の支持を背景に、民主党のデービスに圧勝。写真は19日、ホワイトハウス前での記念撮影。中央が大統領夫妻、両側が副大統領夫妻。

朝日新聞社

▶**復興債券売り出し（11月10日）**震災地の復興と、地方産業振興の資金獲得で9月に第1回、続いて「勤倹週間」に2回目が売り出された。写真は勧業銀行が行った、学生によるサンドイッチマン。

大正13年11月

1（土）●八幡製鉄所、日本で初めて珪素鋼板製造開始。

2（日）●東京市電従業員、日給制・退職手当増額など要求し初の「安全闘争」（4日、妥結）。

3（月）●東京・銀座四丁目町会、町内の永年勤続者表彰。四九年の木村屋のパン職人ほか八〇名。

4（火）●米大統領選、共和党のクーリッジ再選される。

5（水）●馮玉祥軍、宣統帝溥儀を宦官二〇〇〇人、女官二〇〇人とともに北京・紫禁城から追放。

6（木）●失業不安時代に玩具小売りが好調、と新聞に。

7（金）●東京・深川塵芥焼却場建設に区民が反対集会。

8（土）●全日本選手権陸上競技大会で、人見絹枝が三段跳びで世界新記録（一〇メ三八）。

9（日）●青森県特産の蔓細工、パリ万国工芸博に出品。

10（月）●高等学校長会議、各高校の社会科学研究団体の解散を申し合わせ（～14日）。

11（火）●寿屋（現・サントリー）、京都・山崎に日本初のウイスキー工場竣工。

12（水）●東京で全国学生軍事教練反対同盟結成（22日、学生二〇〇〇人が文部省に抗議）。

13（木）●大審院、虎の門事件（大正一二年）の難波大助に死刑判決（15日、死刑執行）。

14（金）●内務省、東成・西成両郡の大阪市編入を認可。

15（土）●上杉慎吉東京帝大教授、右翼学生団体「七生社」結成。新人会に対抗。

16（日）●総同盟、渡辺政之輔ら共産党員六人を除名。

17（月）●久邇宮朝融王と酒井菊子さんの婚約解消。性格の相違のためと久邇宮家が異例の発表。

18（火）●文部省、乃木将軍など「偉人」の肉声の積極的保存を、民間各レコード会社に正式要請。

19（水）●震災後発生の自動車乗り逃げは七件と警視庁。

20（木）●国税減免連合大会、東京・深川で開催。

21（金）●英保守政権、英ソ通商条約破棄を宣言。

22（土）●東京・大崎の逓信省電気試験所、日本で初めて米国からの無電（音楽放送）を受信。

23（日）●米、メトロポリタン歌劇場にジャズ登場。

24（月）●孫文、北京への途次神戸に寄港（28日、「大アジア主義」を演説、日本の中国政策に警告）。

25（火）●行財政整理実施のための諸勅令公布。

26（水）●モンゴル人民共和国が独立宣言。

27（木）●ビル暖炉の煤煙で宮城の枯木目立つと新聞に。

28（金）●東京市、葬儀自動車使用料を規定。一回五〇円。

29（土）●廃帝となった溥儀、北京の日本公使館に避難。

30（日）●香川県太田村伏石の農民、地主の立毛（稲）競売に刈り取り強行、窃盗とされる（伏石事件）。

bpk／デジタルハウス

◀**ヒトラー、復活（12月20日）**前年11月、ミュンヘン一揆の首謀者として入獄。裁判でベルサイユ条約とユダヤ人を糾弾して国民の支持を受け、禁固5年の判決がわずか13ヵ月で恩赦となった。

▲**歌舞伎座復興（12月15日）**大正10年に全焼した木造建築を、鉄筋コンクリートで再建。土足入場にし、廊下を広げて混雑を緩和するなど、大衆的にした。岡田信一郎設計。開場は翌年1月。

「写真通信」

▲**「女性事務員大募集」に押すな押すな（12月）**東京市社会局が実施。女子工員などの求人は多かったが、事務職などはほとんどなかったため、若い女性たちがわっと押しかけた。写真は集団口頭試験の様子。

「国際写真情報」／国際フォト

▶**新渡戸稲造、帰国（12月8日）**国際連盟事務局次長としてジュネーブに6年間滞在した。写真は9日、東京駅に到着した博士（62）。後に太平洋問題調査会理事長に就任、日米関係改善につとめた。

「写真通信」

◀**東京・青山脳病院全焼（12月29日）**深夜、炊事部屋から出火、道路が狭く水利も悪かったため消火がはかどらず、本館・新館などを焼失。死傷者は33人。原因は餅つき後の火の不始末だった。

大正13年12月

1（月）●東京・銀座に八階建ての松坂屋がオープン。

2（火）●ロンドンで英独通商航海条約調印。

3（水）●熊本の五高校長、社会思想研究会に解散命令（以後、各高校で社研の解散命令続く）。

4（木）●日大などの女子聴講生が女子学生連盟結成。

5（金）●東京職業紹介所、初の戸別訪問で求人開拓。

6（土）●独総選挙で社民党が躍進、ナチスは惨敗。

7（日）●駿河湾一帯は五〇年来の豊漁に沸くと新聞に。

8（月）●警視庁、市内のサッカリン使用業者を摘発。

9（火）●陸軍省、行政整理と軍制改革により、将校一二〇〇人、下士官二二三〇人の削減を決定。

10（水）●東京で五ヵ所の宮内省臨時無料診療所が開所。

11（木）●浜口雄幸蔵相、「不況打開に節約を」と声明。

12（金）●特務艦「関東」、福井県河野村糠の浦海岸沖で暴風雨により沈没、乗組員九七人死亡。

13（土）●市川房枝ら婦人参政権獲得期成同盟会を結成。

14（日）●東京の日仏会館、開館式を行う。

15（月）●大正一〇年焼失の歌舞伎座が再建される。

16（火）●鉄道省、日立製作所製の電気機関車（後のED一五形）の試験運転を公開。

17（水）●東京・芝の露店に撤去命令、商人ら解散式。

18（木）●新駐米大使・松平恒雄の親任式が行われる。

19（金）●霞ケ浦上空で海軍機同士が衝突、三人死亡。

20（土）●東京市バス、女性車掌「赤襟嬢」が乗務開始。
●ヒトラー、恩赦で出獄。禁固五年が大幅減刑。

21（日）●鉱山監督局、営林局を新設。

22（月）●東京・日比谷署に、食事めあての「二セ犯罪者」がこの数日間で十数人出頭、と新聞に。

23（火）●菊五郎と吉右衛門、市村座で五年ぶり共演。

24（水）●鉄道省、色灯式自動信号機の使用を開始。
●独ライツ社の技師バルナック、小型高性能カメラ「ライカA型」を完成（翌年発売）。

25（木）●大蔵省、預金獲得競争の排除と預金協定の厳守、利益配当の減少を関係機関に通牒。

26（金）●尾崎行雄宅に右翼一三人乱入、家人らに暴行。

27（土）●小樽港で陸揚げ中のダイナマイト八百余本が爆発。火災も発生し八七人死亡の大惨事。

28（日）●ルーマニアで警察が共産党員四三〇人逮捕。
●内務・司法両省、治安維持法案を発表。

29（月）●内務省、労働者募集取締令公布。営利募集業者による中間搾取などを厳しく制限。
●東京・青山脳病院が全焼、患者ら二〇人焼死。

30（火）●日中海底電信協定成立（青島－佐世保間）。

31（水）●孫文、国防予備会議出席のため北京に到着。

我楽多市

流行語
性的に奔放な女性の魔力

「ナオミズム」。娼婦型の女性、またはそのような生き方をさす。この年三月から、「大阪朝日新聞」で谷崎潤一郎の小説「痴人の愛」の連載が始まった。ナオミはその主人公で、性的に奔放な女性に男性がひざまずくというストーリーが評判を呼んだ。

「三越ね」。女学生や女事務員の間の流行語で、オツムの程度が低いこと。この年、三越デパートで販売している味噌が日方不足であることが報じられ、これを「脳味噌がたりない」と引っかけたもの。

「親不知」。東京の日比谷交差点付近のこと。この交差点は数年前から、道路工事や下水工事が繰り返され、機材は道路に山積みされて崩れそう。歩道は穴だらけで、足を取られて転倒する人が絶えなかった。そのことを、新潟県の交通の難所「親不知」になぞらえたもの。

「対子」。麻雀用語の対子が転用されたもので、体の関係を持った男女のこと。麻雀は二、三年前、中国から神戸に伝えられたと言われるが、この年東京に広がって大変なブームとなった。

▶巣鴨帝国小学校内に設けられた「人形病院」が大繁昌。

写真タイムス

CM100年

雑誌CM
「海女が海に入る時は醤油を呑む　良き醤油は身体を暖む」(丸金醤油)

▲この頃、商品の身体におよぼす効果をPRしたコピーが大流行。

食
セルフサービス第一号? 東京・神田にカフェテリア

神田錦町の中央大学前に、このほど給仕人なし、お客が勝手に好きなものを取って食べるという、珍しい方式の店がオープンした。名前は「中央カフェテリア」と言い、法学士の若林清氏が始めた。若林氏は赤門(東大)出で、民間に初めて官報の売りさばきを試みるなどの変わりもの。震災で無一文になった氏は、親友たちの援助をあおいで開店にこぎつけた。この方式は、友人の池田印刷局長が欧米視察中に見たもので、その話に新しもの好きの若林氏が飛びついた。

同店の隣にはユニオンベーカリーというパン屋も開業し、同店もここのパンを使っているが、このパン屋の主人は新納司元海軍大佐、日露の戦役に偉大な功を残した戦艦「三笠」の艦長だった人である。先頃、休職となった同大佐は、これからの食糧問題の解決の一助にと、陸に上がってパンの製造実験を始めた。それがこうじて、とうとうこのパン屋を開業したという。

(「時事新報」六月四日)

▲北沢楽天画、「時事漫画」3月23日号掲載。震災後、火災保険の支払い請求が殺到、苦慮する清浦首相の図。

©大宮市立漫画会館

住
畳一枚三円七〇銭 東京の家賃調査

警視庁が管下の七七警察署を動員して、市内の家賃の調査を行った。それによると東京で家賃が一番高いのは商業地の日本橋、京橋で、日本橋の場合、店舗が畳一枚三円七〇銭、住宅は二円二〇銭。京橋は店舗が二円四〇銭、住宅が二円七〇銭となっている。次いで高いのが神田、本郷、芝、麻布の順。逆に最も安いのは麹町付近で、畳一枚が一円一〇銭くらいという。

最近、よく問題視される権利金と称するものも、日本橋が第一位の高さで、畳一枚に換算すると平均五円六〇銭くらい。次いで浅草の四円一〇銭。ごく安いところをさがすと、やはり麹町あたりで五〇銭平均である。

(「東京日日新聞」一〇月二二日)

はやり歌

日本近代文学館提供

からたちの花

作詞　北原白秋
作曲　山田耕筰

からたちの花が咲いたよ
白い　白い　花が咲いたよ

からたちのとげはいたいよ
青い　青い　針のとげだよ

からたちは畑の垣根よ
いつも　いつも　とおる道だよ

からたちも秋はみのるよ
まろい　まろい　金のたまだよ

からたちのそばで泣いたよ
みんな　みんな　やさしかったよ

からたちの花が咲いたよ
白い　白い　花が咲いたよ

▲歌詞は童話・童謡雑誌「赤い鳥」の大正13年7月号に発表され、翌14年1月に作曲された名曲である。

兎のダンス

作詞　野口雨情
作曲　中山晋平

ソソラ　ソラ　ソラ　兎のダンス
タラッタ　ラッタ　ラッタ
ラッタ　ラッタ　ラッタ　ラ
脚で　蹴り蹴り
ピョッコ　ピョッコ　踊る
耳に鉢巻　ラッタ　ラッタ　ラッタ　ラ

ソソラ　ソラ　ソラ　可愛いダンス
タラッタ　ラッタ　ラッタ
ラッタ　ラッタ　ラッタ　ラ
とんで　跳ね跳ね
ピョッコ　ピョッコ　踊る
脚に赤靴　ラッタ　ラッタ　ラッタ　ラ

▲歌詞は大正13年、曲は同15年に発表。写真は当時の売れっ子作曲家・中山晋平。

三面記事
パナマでは日米開戦の噂

七月にアメリカが「排日移民法」を実施して以来、日本では正義人道を無視したアメリカの態度に非難攻撃の声が高まっているが、パナマの要塞地帯では日本がアメリカと国交を断絶し、戦争に踏み切るという噂でもちきりとなっている。すでに在留邦人に対する迫害やいやがらせも行われており、邦人の夜間外出は危険な状態である。

パナマ運河のカリブ海側の河口にあるコロン市では、角々に日米戦争のポスターが貼られ、市民の話といえば戦争のことばかり。中には、日米戦の勝敗について土地や金を賭けているものも少なくない。今にも日米戦が始まるような極度の興奮の中で、危険にさらされた邦人たちは帰国準備を始めたり、ブラジルへ移住しつつある。

(「国民新聞」七月四日)

▲この年、旅客895人、貨車25両が搭載できる客載車両渡船「翔鳳丸」が、青函航路に就航。

文化
伊藤晴雨が一挙公開! "責め"のコレクション

三〇年間、"責め"の研究に没頭する画家の伊藤一氏(晴雨)が、文芸家や演劇家を招待して収集品を公開することになった。氏の"責め"は好事家の間では広く知られており、一流歌舞伎俳優も拷問や磔などの場面では、かならず氏の助言を受けている。特に、尾上菊五郎の氏への傾倒ぶりは有名である。また警察も氏について、縄のかけ方などの研究を行っている。関係者の間で氏の収集したものを見せてほしいという要求が日増しに高まるので、そのたびに一人一人に見せるのは面倒と公開することにしたもの。

展示されるのはローソク責め、蛇責め、水責めなど凄惨な"責め"を描いた浮世絵や研究資料一万点と、縄のかけ方一二〇〇種、それに女優や前妻、後妻をモデルにした縛りの写真一〇〇〇枚など、いずれも身の毛もよだつような迫力に満ちたものぞろいである。

(「読売新聞」五月一五日)

◀六月一五日、ご成婚を祝して宮内省が新宿御苑で運動会を開催。

写真タイムス

学校
劇の次はダンスを禁止 岡田文相のナンセンス

学校における演劇の流行に対し「生徒に白粉をほどこして公衆の観覧に供するのは、質実剛健の国民作りに反する」としてこれを禁じた岡田文相が、またまたダンスを禁止するつもりだという。

これについて文相の意を聞くと「学校におけるダンスは演劇ほどさかんではないので、すぐに禁止する気はないが、一部では欧米の下層社会やバーで行われるタンゴなどが行われていると聞く。劇だけ禁止しても、ダンスで品性下劣な子どもができるようでは困るので、目下調査中」とのこと。それでも、今年中には禁止されることになりそうだ。

(「都新聞」一〇月一八日)

▶アメリカに渡った奇術の松旭斎天勝一行が、秋のニューヨークで市内見物。衆目を集めた。

朝日新聞社

この年の初もの
糊がついた切手発売 一銭五厘と三銭登場

●**人類学博士**　東大理学部の松村瞭講師が、日本人の身体的特徴を分析した論文で授与される。それによると、日本人は人類学的に九つの集団に分かれているという。

●**気動車**　アメリカの大西部鉄道会社に、四四人乗りと三〇人乗り(一部荷物用)の二タイプがおめみえ。

●**女性知事**　アメリカ・テキサス州知事選挙に、ファーガソン夫人が当選。

●**プロ野球チーム**　宝塚運動協会設立。ただし、六年で解散。

世界の動き

清朝打倒をめざす中国革命同盟会発足から一九年 国民党第一回全国大会開催、そして北京へ

「国父」孫文、最晩年の輝き！

◀1916年5月、孫文は上海で「第2次討袁宣言」を発表。全国的に袁世凱弾劾の声が高まる中、袁は翌月急死。中華民国は軍閥混戦の時代に入っていく。

孫文の生涯を貫いたのは、日本や西欧列強が強いる国土の分割を食い止め、民主的中国の誕生をめざす強烈な情熱であった。一九二四年一月、念願の国共合作をなしとげ、翌二五年三月、「革命いまだ成功せず」の遺言を残して他界した彼は、中国革命の礎を築いた「国父」の呼び名にふさわしい偉大な先駆者であった。

共産党員も参加して国共合作がスタート

中国革命史上、第一次国共合作とも言える中国国民党第一回全国大会が開催されたのは、一九二四年一月二〇日のことであった。会場となったのは広州の広東高等師範学校（後の中山大学）の大講堂。参加者は全国の各省や海外支部の代表者合わせて一九八人。大会は、一九一九年五月四日、あくまで山東省における旧ドイツ権益の獲得（二一ヵ条条約）に固執する日本への反日運動（五・四運動）として始まった、学生、商人、労働者の流れを糾合する記念すべきものであった。

孫文（五七）を総理として運営されたこの大会は、一月三〇日まで開かれ、翌三一日に大会宣言が正式に発表された。

ただし、大会では国民党と共産党の軋轢もしばしば浮きぼりになった。孫文の説く民生主義と共産主義の違いや共産党員の党籍離脱など、合作をめぐる両党の論議が沸騰したが、それをまとめあげたのは孫文の存在であった。そして中国最後の王朝となった清朝打倒のため、東京で結成された中国革命同盟会発足から約一九年、孫文の革命理念は、大会宣言に結実することになったのである。

大会宣言は、帝国主義の侵略をはねのけ、国内諸民族の平等（民族主義）、封建軍閥の専制を排した民族の自由と権利（民権主義）、そして土地の集中と独占資本を制限する民衆の福利（民生主義）の三点、いわゆる「新三民主義」を高らかにうたい上げた。

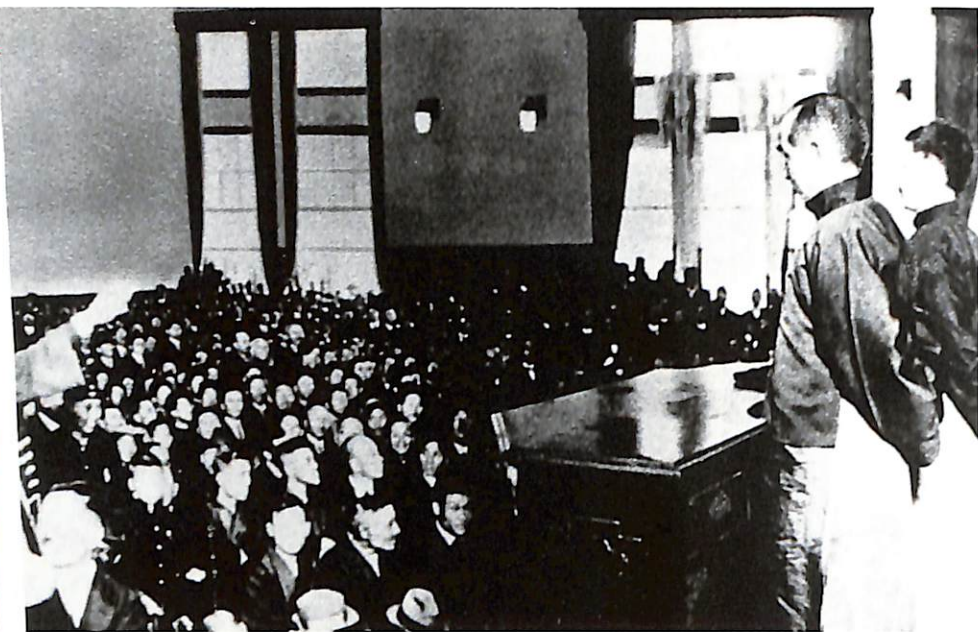
新たな党役員も次々選出された。中央委員は二四人、その中には、李大釗、譚平山、于樹徳の三人、同候補一七名中には、林祖涵、毛沢東（三〇）、張国燾ら七人の共産党員も含まれていた。

そして国民党は、その後の革命運動を強力に押し進める態勢を着々と築いていった。その手始めに孫文が推進したのが軍官学校の設立である。後に国民党を率いる蒋介石（三六）を校長に、「中国国民党陸軍軍官学校」（黄埔軍官学校）の開学式典が行われたのが一九二四年六月一六日。創立にのぞんだ孫文は、「立派な革命軍がなければ、中国革命は永遠に失敗するに違いない」と檄を飛ばしている。この黄埔軍官学校では、フランス帰りの若き周恩来（二五）が政治部主任として活躍、卒業生は一九二六年までに約五〇〇〇人に達し、国民革命の中核になっていったのである。

王朝体制に終止符 軍閥戦争が始まる

外国資本のすさまじい流入、そして重税と困窮にあえぐ国民が、清朝への怒りを爆発させたのは一九一一年一〇月一〇日のことであった。孫文が結成した中国革命同盟会を中心とした武昌蜂起の波は、華中から華南全土におよび、一二月初めには南京を占領、翌一二年一月一日、全国二四省中一七省が独立を宣言し、中華民国臨時政府を樹立した。

臨時大総統には孫文が選ばれたが、巻き返しをはかりたい清朝は、北洋軍閥の実力者・袁世凱を総理大臣に任命する。孫文は混乱を避けるため、清帝の退位と共和制への移行を条件にやむなく退任。二月一五日、袁世凱が大総統に就任し、清朝に対して、皇帝は退位後も「大清皇帝」の尊号を継承でき、紫禁城での生活も現状のまま、歳費も支給するという優待条件と引き替えに皇帝の退位を迫った。そしてここに、六歳の清朝最後の宣統帝溥儀は退位し、満州人による清朝二百六十余年、秦の始皇帝以来、二千百三十余年続いた中国の王朝体制に終止符が打たれたのである。

清帝退位後はまさに血で血を洗う軍閥戦争が開始された。袁世凱が中央政府を

▲11月28日、神戸商業会議所主催の講演会で、「大アジア主義」について論じる孫文。 兵庫県立神戸高校校史記念室提供

▲黄埔軍官学校にて。中央が孫文、右隣の軍服姿が蒋介石。

▶馮玉祥のクーデターにより、北京の紫禁城を追われて天津へ逃げた溥儀。右は日本駐屯軍司令官、小泉六一。

外から見たNIPPON

魯迅が「中国への処方箋」とした厨川白村の"日本批判"

——佐伯 修

中国の文学者・魯迅（一八八一〜一九三六）の全文業の約半分を占める外国文学の翻訳には、日本人の著作も少なからず含まれる。一九二三年刊行の、弟・周作人との共訳『現代日本小説集』には、彼の訳した漱石、鷗外らの作品が収録されている。

さらに、この年から翌二五年にかけて、魯迅は関東大震災の犠牲になった、英文学者・評論家、厨川白村の二冊の遺稿集『苦悶の象徴』『象牙の塔を出て』を翻訳刊行している。今日では、その「恋愛至上主義」について以外は、ほとんどかえりみられることのない厨川だが、大正時代には、辛辣な警句をちりばめた文明批評の書き手として、言論界のスター的存在の一人であった。魯迅は、そんな厨川の著作を、中国の読者に紹介したいくつかの文章の中で、厨川の、みずからを鞭打つかのような「最愛の祖国——日本——の欠陥」に対する「猛烈な攻撃」ぶりに触れ、厨川の文章を、中国人が自分の体内の"毒"をのぞき去るための「外国の薬屋から買い入れた一服の下剤」にしたいと述べている。

「著者の指摘する微温、中道、妥協、虚偽、卑屈、自惚れ、保守などの世相は、まさに中国のことを語っているのではないかと、疑いたくなるほどである。とりわけ、すべての事がほどほどにおこなわれ、底力がない。すべてが霊より肉へで、幽霊の生活を過ごしているという話がそうである。（中略）著者がすでにこれが重病であると考え、診断を下した後、一つの処方箋を作っているのだから、同じ病気の中国も、まさしくこれを借りて少年、少女たちの参考に供し、またこれを服用させれば、キニーネが日本人の疾患を治したように、中国人も治してくれるであろう」（『象牙の塔を出て』後記、学研版『魯迅全集』第一三巻より）

▲この年、『中国小説史略』完結。

古い精神的な枠組みから脱しえない中国の現状に深く絶望していた魯迅は、「同じくアジアの東に位置し、情況がよく似て」いて、しかも、時に伝統にとらわれず、大胆な自己変革を行う日本から、常に多くを学ぼうとしていた。後の「満州事変」直後でさえ、彼は、熱狂にかられた中国国内の日本全否定論に、排外的な自己中心主義という、中国の悪しき精神的伝統を感じ、むしろ、中国はもっと日本の良質の部分を学び、自己変革してこそ日本の侵略にも勝てるのだ、との趣旨の文を発表している。

一九〇二年から九年まで日本に留学した魯迅は、日本で文学に志し、絶筆も、内山完造にあてた日本語の書簡であった。

中国革命の道程で孫文が残したもの

孫文が「北上宣言」を発したのはこの年一一月一〇日。「真に民意を代表する国民会議を」という国民の期待は、孫文の一身に集まった。

北上の途上、日本の神戸に立ち寄り、一一月二八日、日本は「西洋覇道の番犬」となるのか、「東洋王道の牙城」となるのかを問う「大アジア主義」と題する講演で熱弁をふるう。その後、一二月三一日に北京入りした孫文は、熱狂的な歓迎を受けた。

しかし、孫文の肉体はすでに三年来の肝臓癌にむしばまれていた。一九二五年三月一二日、北京で開かれていた国民会議促成会全国代表者大会の最中、孫文は五八歳で波乱の生涯を閉じ、その遺書には「現在、革命なおいまだ成功せず」と記されてあった。

孫文は中国革命にどのような足跡を残したのか。東大名誉教授で共立女子大学教授の丸山松幸氏は次のように語る。

「今、中国にある北京と台湾の二つの政権は、どちらも孫文を"国父"と仰いでいます。両方とも孫文が掲げた三民主義を出発点にしているからです。その後、大衆運動か国家建設かという路線上の対立から、共産党と国民党は抗争を続けますが、それは近代的で民主的な中国を作るという孫文の理想を実現するための必至の闘いだったと言えます」

まさに、孫文は中国革命の原点を築き、中国近代化への道を開いた先駆者だったのである。

牛耳るといっても、支配のおよぶ範囲はごく限られていた。安徽・福建派の段祺瑞、直隷派の曹錕、呉佩孚、馮玉祥、奉天派の張作霖、そして大総統を辞任し華南にあった孫文のもとに集った広東派、広西派——これらの軍閥抗争が一段落したのは、国共合作による国民革命が始動した一九二四年一〇月のことであった。

当時中央政府を支配していた直隷派の馮玉祥が一〇月二三日にクーデターを敢行、曹錕を追い出し、直隷派勢力は北京から一掃された。紫禁城で暮らしていた溥儀も一一月五日、城を追われて天津に逃げのびる。そして中央（北京）政府の空白を埋めるため、段祺瑞を臨時執政にあて、広東にいた孫文に北京への北上を要請したのである。

孫文（1866〜1925）
広東省生まれ。医師として世に出たが、革命運動に専念。一九一一年辛亥革命により臨時大総統に。一九年中国国民党を組織。三民主義で知られる。

▶孫文が生涯を終えた北京・鉄獅子胡同の仮宅。「革命なおいまだ成功せず」の文字のかたわらに立つのは、妻・宋慶齢。

往きて還らぬ

▲2月13日　杉浦重剛（68）
教育者。日本主義者として知られる。明治18年東京英語学校（現・日本学園高校）創設、明治21年雑誌「日本人」刊行。

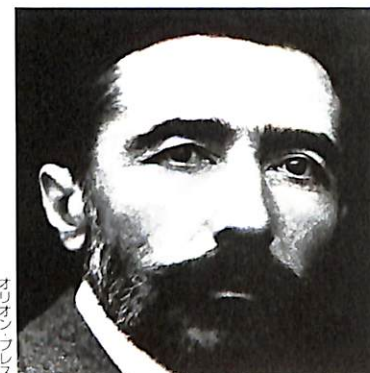
毎日新聞社

▲4月7日　初代澤村宗之助（38）
歌舞伎俳優。明治22年初舞台、女形を得意とし、当たり役に「大森彦七」の千早姫など。インテリ俳優でも有名。

▲6月3日　フランツ・カフカ（40）
小説家。実存主義文学の先駆者で、日常の不安や絶望をリアルに描いた。代表作に『変身』『審判』など。

▲7月2日　松方正義（89）
明治から大正期の政治家、財政家。明治14年大蔵卿としてデフレ政策、明治29年首相として金本位制を実施。

▲7月15日　黒田清輝（57）
洋画家。東京美術学校主任となり、白馬会結成後、画壇主流を形成。明治28年の「朝妝」は裸体画論争を引き起こす。

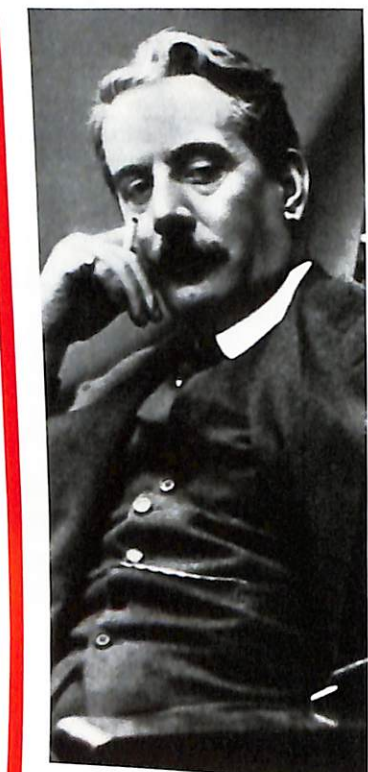
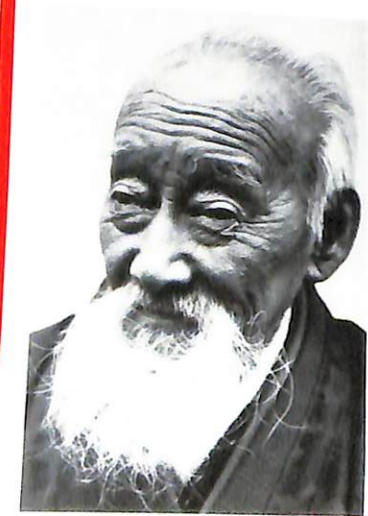
オリオン・プレス

▲8月3日　J・コンラッド（66）
英の小説家。1897年『ナーシサス号の黒人』で認められる。『闇の奥』は映画「地獄の黙示録」の原作として有名。

▲8月15日　郡司成忠（63）
明治期の軍人。小説家・幸田露伴の兄。探検家としても知られ、明治29年千島列島最北の占守島に家族と移住。

◀12月8日　山村暮鳥（40）
詩人でキリスト教の伝道師。大正4年詩集『聖三稜玻璃』が詩壇に衝撃を与えた。童話の著作もある。

▲10月12日　A・フランス（80）
仏の小説家で、冷徹な批評家としても知られる。1921年ノーベル文学賞受賞。代表作に『神々は渇く』など。

毎日新聞社

▲11月2日　2代目三遊亭圓朝（63）
落語家。明治中頃から圓右を名乗り、人情噺などで人気を集めた。大正13年念願の圓朝を襲名するが数日後病死。

▲11月29日　G・プッチーニ（65）
伊の作曲家。1893年オペラ「マノン・レスコー」で名声を確立。1904年日本人にもおなじみの「蝶々夫人」発表。

▲12月31日　富岡鉄斎（87）
日本画家。勤皇の志士として活躍、明治14年から文人画家の生活に入る。代表作に「阿倍仲麿明州望月図」など。

ミニ事典

1924年のキーワード

超然内閣

政府は政党の動向に左右されず独自に政策実現をはかるべきだ、という明治時代の反政党の政治理念（超然主義）によって成立した内閣。大正になっても続き、一月七日、清浦奎吾は貴族院議員だけを登用したため、貴族・特権階級の「超然・特権」内閣として非難をあびた。憲政会・政友会・革新倶楽部は政党内閣擁立を唱えて憲政擁護運動を起こし、五月、護憲三派連立内閣を成立させた。

▲復興公債をまとめたモルガン商会代表のラモント（中央）。昭和2年、政府の招きで来日した。

国辱公債

震災復興にあてるために発行された約五億円の外債。二月一一日大蔵省発表。英国に二五〇〇万ポンド、償還期限三五年、利率六分、米国に一億五〇〇〇万ドル、償還期限三〇年、利率六分半の条件だったが、この利率の高さと償還期限の長さが、三等国以下の条件として「国辱公債」の名を生んだ。しかし、国際市場での日本経済の信用は低く、政府代表の森賢吾財務官が、親日派の米モルガン商会を突破口に、やっとまとめた商談だった。

児童の村小学校

教育の世紀社同人・野口援太郎を校長に四月一〇日、国家主義的教育を批判し、児童の「協働自治」を掲げて、東京府北豊島郡池袋に開校した小学校。校舎は校長の自宅、児童数わずか六一人。野村芳兵衛、平田ノブらを先生に、教室、時間割、教材、先生も児童が選べるという、親のためでも国のためでもない、児童のための自由な教育を行い注目された。

日本フェビアン協会

山崎今朝弥弁護士を世話役に、四月二七日に創立された啓蒙的社会主義団体。会長・安部磯雄。会員に嶋中雄三、石川三四郎、小川未明、木村毅、秋田雨雀、藤森成吉、菊池寛などが加わった。創立宣言で社会主義を、言論出版で検討・提案するという。「社会主義研究」を機関誌とした。議会活動を中心とする漸進的な社会主義の実現を主張した。

荻野学説

婦人の排卵期（受胎期）は、月経周期の長短にかかわらず次回月経前の一二～一六日である、とした産婦人科医・荻野久作の婦人生理学説。六月一日発刊の「日本婦人科学会雑誌」に発表。この理論から受胎可能期間中（次回月経前一一～一九日）は避妊する「荻野式受胎調節法」が生まれ、「主婦の友」一二月号で紹介した。産児制限が強く求められる中で、画期的方法として急速に広まった。

セツルメント

貧しい人々と暮らしをともにする場を設け、そこでの交流を通して生活の改善、教育文化の向上などをはかる社会改良運動。一八八四年ロンドンで始まった。日本には隣保事業と訳されて、明治二四年頃移入された。震災後の救援活動の中から生まれた東京帝大セツルメント（会長・末弘厳太郎）が本格的な活動だった。六月一〇日に本所・柳島に開設、セツルメント運動のモデルとなった。

▲東京・本所のセツルメントで、子どもと記念撮影。学生4～5人が常駐した。

ビスコースレーヨン

人造繊維（化学繊維）である再生レーヨンの一種。人絹とも。木材パルプに、水酸化ナトリウムと二硫化炭素を作用させてセルロースキサントゲン酸ナトリウムを生成、これを水に溶かして紡糸原液とし、硫酸などを含む水溶液の中で紡糸する。六月に旭絹織（現・旭化成工業）がドイツのグランシュトクから特許を得て製造開始。化繊の代名詞となった。

円タク

一円均一のタクシー。六月二七日、大阪に設立された均一タクシー株式会社が、英レイランド製トロジャン六〇台で創業。濃紺の車体に金筋が目印で、東は官鉄城東線（現・環状線）、西は朝日橋―夕凪橋、南は関西線今宮駅―天王寺駅、北は阪神北大阪線の「旧市内」ならどこへ行っても一円。ハイヤーと違って低料金と、誰でもが自由に利用できることが受けて、引っぱりだことなった。

毎日新聞社

▲大阪の人気から、東京でも始まった。運転手の左側にいる助手の少年が客を集めた。

嗜眠性脳炎

ウイルスによる急性感染症で、現在の日本脳炎。高熱を発して眠り続けることから、嗜眠性脳炎、あるいは「眠り病」と言われた。この年、伝染経路、予防法などに対する知識不足のため、大流行し、九月には死者が全国で三三一〇人に達した。昭和二九年、法定伝染病に指定。ウイルスを媒介するアカイエカの減少から近年、患者数は激減した。

川井訓導事件

小学校訓導（教師）が修身の授業に、国定教科書以外の副教材を使ったため休職処分となった事件。長野県の松本女子師範付属小学校教師・川井清一郎が九月五日、四年生の修身の授業で教科書を使わず、森鷗外の「護持院原の敵討」を用いたところ、参観の県学務課長に叱責され、休職処分を受けた。擁護運動も起きたが、川井は二七日、職場を去り、画一的な教育の強化を印象づけた。

小作調停法

小作争議の際、当事者の申し出により、裁判所が調停を行う制度を定めた法律。七月二二日公布、一二月一日、長崎・宮城など九県をのぞく全国で施行。裁判所は通常三人以上の調停委員を選任して委員会を構成し、紛争の調停にあたった。続発する小作争議に対する政府の解決策だったが、調停委員には地主・自作農がなる場合が多く、小作農に不利な裁定も多かった。第二次大戦後に廃止、民事調停法、農地法に統合された。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1924

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ 飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正

●写真協力
伊藤豊 奥村健太郎 古川繁郎 松本逸也 吉野孝雄 朝日新聞社 「イリュストラシオン」 オリオン・プレス 国際フォト 木挽社 デジタルハウス ノーボスチ通信社 PPS 毎日新聞社 マツダ映画社 ユニフォト・プレス サントリー 宝塚歌劇団 大宮市立漫画会館 大宅壮一文庫 中国文化省 月形町教育委員会 東京大学法学部付属明治新聞雑誌文庫 日仏会館図書館 日本近代文学館 bpk 兵庫県立神戸高校校史記念室 林風舎 早稲田大学演劇博物館

定価560円

雑誌 23712-6/9
Ⓛ-2001/1/1
T1123712060564

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社